

JAPAN URBAN DESIGN  
INSTITUTE

都市環境デザイン会議

東京都文京区本郷2-35-10  
本郷瀬川ビル TEL 03-3812-6664  
TELEPHONE 03-3812-6664  
FACSIMILE 03-3812-6828

# JUDI

## 102

20.JUNE  
2010

特集 祭りの場としての都市

●特集：「祭りの場としての都市」	
特集1. 祭りと祀り－中・四国地方のまつり－	1
特集2. 越中八尾おわら風の盆と都市環境 デザイン	6
特集3. 仙台・平塚たなばた祭り	10
特集4. ねぶたが根づく津軽の街	14
特集5. 自由が丘商店街	20
●新人会員の紹介	24
●選挙管理委員会役員選挙結果報告	27
●事務局より	28

発行者：都市環境デザイン会議 広報・出版委員会

## 特集：祭りの場としての都市

### 特集 1

#### 祭りと祀り

#### －中・四国地方の まつり－

長沼 真智子  
NAGANUMA MACHIKO  
(有)エル・グレコ  
JUDI 代表幹事

中、四国地方において、中国は、古代より、吉備、出雲の大國を擁し、瀬戸内海には多くの島々があつて、それぞれの島は海の文化を形成してきた。四国は、4つの県により成り立つ巨大な島でもある。

この様な観点から、中国地方は、古代国の神事を中心とした祀りの文化と現代の住民による祭り、瀬戸内海の島々はそれぞれの海の神を祀るための祭りと新しいムーブメント、四国は海、海路から見る土着の文化とまつり、そして現代に目を転じ、季節ごとのいまの祭りを私が現在居住する倉敷を中心に据え、調べてみた。

これらの祭りは、3つのディメンションによる3つの軸によって構成されている。

イメージとしては、すなわち上下の縦軸は「祀り」から「祭り」へ、左右は地域ごとの「まつり」そして前後の軸に時間、時代を配してみた。これらの要素が複雑に絡み合い、要素どうしの複合化によって、現代の祭りは成り立っているといえよう。

以下にそれぞれの祭りの今行われている形態と期日を調べたものを記したが、時代的な遡りについては紙面の都合上割愛させていただいた。

#### ① 古代より

#### ■ 吉備の国

#### 山陽道・出雲道

古代において吉備の国は、備前・備中・備後の3国から成り立っていた。その後、備後は西隣の安芸国と緊密となり、近代に至って広島県となつて行った。一方、備前からは美作国が作られ、近代に至つて、備前・備中とともに、岡山県となつた。旭川河口にある高島は島内に磐座があり、周囲から土器や勾玉・鏡・刀・鎌などが出土している。古墳時代には瀬戸内海を航行する船の安全を祈念する祭祀の場所であったと考えられる。

岡山県の北部、美作国には、古代から出雲街道が通り、多くの人々や物資、文化が運ばれた。出発点は大和、目的地は出雲である。宗教的な意味づけとしては、古代日本海側の祭神、大国主命は「古事記」では天照大神に国譲りをしている。神話の時代から双方は密接な交流があつた。

山陽道の太市駅（姫路あたり）から分岐した出雲街道は、中国自動車道のルートで坪井あたりまでの間に、十数基の中型前方後円墳が分布している。

#### ② 中国

#### ■ 岡山のまつり

**福力荒神社大祭**：津山市（旧暦元旦）氏子の少女たちによる豊栄舞

**西大寺会陽（裸祭り）**：岡山市（第3土曜）奇祭。裸の男たちが、御福窓より投下された「宝木」2本を激しくぶつかり合いながら奪い合う

**山中一揆義民祭**：真庭郡湯原町（5月3日）

**長田神社お田植え祭**：真庭市（5月5日）田植ひったか：笠岡市（旧暦5月5日頃の土曜）「日を高く掲げる」がなまって「ひったか」

**おしぇらんご**：笠岡市（旧暦5月5日ごろの日曜）櫓を漕ぐことを「押す」、競争することを「ぐらんご」ということから

**大宮踊**：真庭市（盆前後の数日）〔国指〕

**白石踊り**：笠岡市白石島（8月14~16日）〔国指〕  
**はしり神輿**：笠岡氏真鍋島（5月2~4日）3其の神輿が神事後、大漁旗を掲げて漁船で海上渡御。島民が神輿を担ぎ、島内の路地を全速力で駆け抜ける。

**両山寺護法祭**：久米郡美咲町（8月14日）密法修行のかたちを残す。密法実に護法善神が乗り移り、本堂前の庭を駆け巡る。

**備中たかはし松山踊り**：高梁市（8月14~16日）3日3晩夜通し行われる。

近実の念仏踊り：久米郡美咲町（8月14日）  
 境神社の獅子舞：久米郡美咲町（体育の日）  
 宮原獅子舞：美作市（体育の日の直近の土・日曜）  
 栗井春日歌舞伎：美作市（10月最初の土・日曜）  
 農村歌舞伎  
 阿智神社秋祭り：倉敷市（10月第3土・日曜）  
 氏子地区を廻る神幸行列。「じじ」「ばば」の面をつけ、両手に渋うちわを持った「素隠居」が子供たちを追い回し、頭をたたく。近年、「屏風祭り」が町衆によって復興された。



写真1 倉敷阿智神社秋祭り



写真2 復興された倉敷屏風祭り

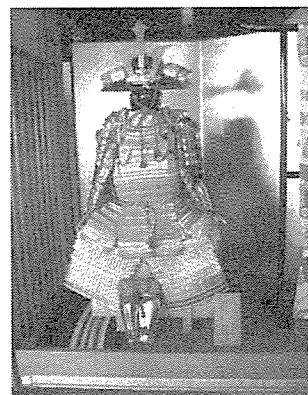


写真3 倉敷屏風祭り



写真4 倉敷屏風祭り

加茂大祭：加賀郡吉備中央町（10月第3日曜）  
 牛窓秋祭り：瀬戸内市牛窓町（10月第4日曜）  
 太刀踊り、唐子踊り  
 備中神楽：井原市〔国指〕備中地方に伝わる氏神の秋祭りと荒神祭りに舞われる神楽。



写真5 備中神楽

#### ■ 鳥取のまつり

管粥神事：倉吉市（旧暦1月14・15日）竹荀の中の粥の詰まり具合によって、1年の農作物の豊凶を占う伝統行事。  
 流し雛：鳥取市（旧暦3月3日）紙雛を棧橋にのせ、千代川にながす。  
 法勝寺一式飾り：西伯郡（4月第2土・日曜、10月第2日曜）民家座敷などにルールに沿って工夫を重ねた置物を飾る。赤いちょうちんが目印。  
 姫路神社百手の神事：鳥取市（4月第4日曜）  
 大山寺御幸：西伯郡大山寺（5月24日）神輿を中心とした行列が大山寺へ向う。  
 因幡の菖蒲綱引き：鳥取市（5月第2日曜）〔国指〕7歳から14歳までの男子が参加。茅、菖蒲、蓬の綱で地面を打って祝う。  
 鳥取しゃんしゃん祭り：鳥取市（8月16日）商工振興を目的として、「鳥取祭」に「因幡の傘踊」を加え、市民参加の祭とした。  
 上淀の八朔行事：米子市（9月第1日曜）作った大蛇を荒神にお供えし、頭を神木に飾る。  
 福岡神社の大注連縄神事と蛸舞式神事：西伯郡伯耆町（10月第3日曜）蛸舞式神事は、裸の氏子が藁製の蛸を捧げて舞い、天井に抱きついでいる願主を多勢で下から回転させる。

#### ■ 島根のまつり

宅野子ども神樂：太田市（2月11日）  
 青柴垣神事：松江市（4月7日）前夜から潔斎をして神懸かり状態になった2人の「頭人」を船まで運び、青柴垣で囲んで秘儀が執り行われる。  
 安子神社のお田植え安産神事：出雲市（4月8日）  
 隠岐国分寺蓮華会舞：隠岐郡（4月21日）〔国指〕  
 玉若酢命神社御靈会風流：隠岐郡（6月5日）鳥居から拝殿前へ神馬一体となって一気に駆け抜ける「馬入れ神事」が迫力。  
 津和野の鷺舞：鹿足群津和野町（7月20、24、27日）〔国指〕雌雄2羽の鷺が向かい合って舞う。

**島後久見神樂**：隱岐郡（7月25日）  
**津和野の盆踊り**：津和野町（8月10日）念仏踊の流れを汲む。黒福面に白鉢巻、鉢巻の左に团扇を挿し、白の長振袖に尻からげの姿で踊る。  
**須佐神社念佛踊り**：出雲市（8月15日）  
**長浜八朔祭**：浜田市（8月31日）周囲の民家の軒先には、椿の枝につけた造花が飾られる。参拝に訪れた人達がその造花を持帰り自宅の台所などへ飾って1年のお守りにする。  
**美田八幡宮の田楽**：隱岐郡（西暦奇数年9月15日）〔国指〕浦郷の日吉神社と毎年交代で行われる隱岐田楽。  
**佐陀神能**：松江市（9月24・25日）〔国指〕「神能」は出雲国内はもとより西日本各地の里神楽に大きな影響を与えたとされ、出雲流神楽の源流とも云われている。  
**海潮神代神樂**：雲南市（9月28日）  
**日吉神社庭の舞・十方拝礼・神の相撲**：隱岐郡（隔年・西暦偶数年10月9日に近い休日）〔国指〕美田八幡宮の十方拝礼と交互に奉納。  
**宇賀神社獅子舞**：出雲市（10月第3日曜）  
**神来原八幡宮例大祭**：浜田市（10月21日）「石見神樂」が奉納される。  
**大土地神樂**：出雲市（10月25日に近い金・土曜）〔国指〕氏子を中心として演じられる素人神樂。  
**神在祭**：出雲市（旧暦10月11～17日）旧暦10月は一般には神無月と呼ばれるが、出雲では神在月と呼び、全国各地より参集する神々をお迎えする神事を行う。  
**日本石見神樂大会**：浜田市（11月中旬の日曜）  
**神在祭（お忌祭）**：松江市（11月20～25日）25日の夜、神職以下多勢の氏子、崇敬者が神社の北勢キロの神ノ目山まで神々をお送りする。  
**大元神樂フェスティバル**：邑智郡（11月第3日曜）〔国指〕（大元神樂）  
**諸手舟船神事**：松江市（12月3日）古代装束をまとった氏子達が二隻の諸手舟（古代の刳舟）に乗り込み、櫂で水を掛け合う。

### ■ 広島のまつり

**能登原のどんど**：福山市（1月第2日曜）正月飾りに用いられた注連飾りや門松を燃やす小正月の伝統行事。  
**能地春祭**：三原市（3月第4土・日曜）「ふとんだんじり」の激しい練り合い。  
**名荷十二神祇神樂**：尾道市（4月第1日曜）  
**新庄のはやし田**：山県郡（5月第2日曜）〔国指〕飾り牛による「代搔き」参加者の「道行き」の後、早乙女たちが田植歌を歌いながら早苗を植える。

**中国地方選抜神楽競演大会**：山県郡（6月第1土曜）  
**壬生の花田植**：山県郡（6月第1日曜）〔国指〕田植歌に菅笠姿の早乙女たちが唱を返しながら

田植をし、後方で太鼓を越に吊るした男達が巧みなばちさばきを披露する。  
**巣島管弦祭**：廿日市市宮島町（旧暦6月17日）管弦とは三管、三鼓、三弦を合奏する音楽で、平清盛が、京の都の風習を宮島に移し、神様をお慰めする神事として、船上で催したのが始まりとされている。  
**三原やっさ踊り**：三原市（8月第2日曜前の金・土曜）  
**法楽おどり**：尾道市（8月中旬）村上水軍が出陣の際、戦勝祈願、士気鼓舞のため踊ったとされる。  
**比婆荒神神樂**：庄原市（11月初旬から年内）〔国指〕  
**ひろしま神楽グランプリ**：安芸高田市（11月第4土曜）

### ■ 山口のまつり

**阿月神明祭**：柳井市（2月11日）東西両地区海岸にある松・竹・梅のご神体の下で、男は武者踊り、女子は傘や短刀を持って二人組みの踊りを奉納（神明踊り）。その後、火がつけられ、海上に倒す。  
**先帝祭**：下関市（5月2～4日）  
**お田植え祭**：下関市（5月第3日曜）  
**錦帯橋のう飼**：岩国市（6月1日～8月31日）なむでん踊り：大島郡（最終土曜）虫送り行事の一つ。楽器の音で悪虫悪霊を追い払うという意味で、鉦・太鼓の伴奏のみで歌詞は伴わない。中心は中学生以下の子供たちで、太鼓・鉦鼓・妙鉢・棒使い・しかしか（唱えごと）・実盛人形（デコと呼ぶ）をあつかうデコ廻しなどがある。  
**山口祇園祭「鶯の舞」**：山口市（7月17日）  
**島田人形淨瑠璃芝居**：光市（8月4・5日）  
**周防祖生の柱松**：岩国市（8月15・19・23日）〔国指〕夜の火祭り。回りを3方大縄で張った鉢に松明が入るとシャギリと呼ばれる太鼓が打ち鳴らされる。  
**湯本南條踊**：長門市（9月10日）  
**赤崎神社楽踊**：長門市（9月10日）太鼓踊り  
**三隅の腰輪踊**：長門市（9月16日）  
**切山歌舞伎**：下松市（9月から11月中旬）  
**滝坂神樂舞**：長門市（11月2日）  
**三作神樂**：周南市（卯年と酉年の11月中旬）〔国指〕  
**柳井まつり**：柳井市（11月23日）市民総参加の秋祭り。花笠踊り、特産品の販売、白壁の町並みで江戸祭り。  
**防府天満宮裸坊祭**：防府市（11月第4土曜）  
**笑い講**：防府市（12月第1日曜）世襲制。神前に供えてあった大榊2本を渡し、二人は大声で三度笑いあう。

### ③ 濑戸内海の島々：今

#### 瀬戸内国際芸術祭

テーマ：「アートと海を巡る百日間の冒険」

期間：2010年7月19日（海の日）

～10月31日（日）

会場：直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島、高松港周辺

17の国と地域から75組のアーティスト、プロジェクト、13のイベントが参加。

### ④ 四国

#### ■ 徳島のまつり

##### 天の岩戸神樂：美馬郡（1月1日）

お的：阿波市（1月15日）神社内に的場を設け、五穀豊穣を祈る。

神代踊り：三好氏（6月25日）〔国指〕雨乞い祈願。三十名を超す規模で、構成は、采振り、天狗、露払い、獅子、薙刀使い、棒振り、奴、草履取り、太鼓打ち、鉦叩き、カチカチ、笛吹き、山伏、踊り子。

宍喰町祇園祭：海部郡（7月16・17日）大山、小山と呼ばれる山鉾2台、ダンジリ3台、関船1台が引き廻される。子供達が神社拝殿前の舞台で舞（能舞）を奉納。神輿の巡幸（お浜出）にも随行する。囃し方も子供たちが努める。

阿波おどり：徳島市（8月12～15日）毎年130万人の観客が詰めかける。鉦が先導し、笛・三味線・大太鼓・締太鼓のお囃子でまちは踊り一色になる。

木屋の踊り念仏：美馬郡（8月14日）新仏慰靈のために踊られる。念仏を唱えながら全員が後ずさりしながら進み、次第に声も速度も速く大きくなって行き、各人は前の人との着物や帯をつかまないと倒れそうになる。

##### 宅宮神社の神踊：徳島市（8月15日）

##### 木頭おどり：那加郡（8月16日）

やねこじきと大行列：阿波市（体育の日）藩主の問い合わせに庄屋が、「誠にやねこいものです」と方言で答えたのを、聞き間違えたところからこの祭りの名前の由来がある。

神代御宝踊：吉野川市（10月22日）

#### ■ 香川のまつり

櫛石ももて祭：坂出市（1月初旬から中旬にかけての日曜）「ももて（百手）」とは、馬に乗らずに弓を射る歩射のこと。

金刀比羅宮桜花祭：琴平町（4月10日）冠に桜の花を差した神職と桜の枝を手に持った巫女の行列が奏楽の中大門から御本宮まで参進する。

だんじり子供歌舞伎：東かがわ市（5月4日から5日頃）

金刀比羅宮奉納蹴鞠：仲多度郡琴平町（5月5日）

金刀比羅宮遷座祭：琴平町（6月17日、三十三年に一度、最近では平成十六年に斎行）神はい

いつも新しい場所にという「常若」の精神。

肥土山の虫送り：小豆郡（7月2日）半夏生の夕方行われる約300年の歴史を持つ虫送り。

滝宮の念仏踊：綾歌郡（8月25日）〔国指〕

綾子踊：仲多度郡（8月下旬の日曜、隔年）〔国指〕花笠に艶やかな衣装をまとった女装した男子の「小躍」「大踊」に素朴な農民姿の「側踊」「水の踊り」「四国船」「花籠」など十二段あり、女歌舞伎踊りの面影がある。悪魔調伏の「棒薙刀問答」。

シカシカ踊り：善通寺市（9月第2土・日曜）祖靈が踊る人にのりうつる様子を表したとされる独特の動きやリズム。「シカシカ」とは踊りの囃し言葉で「然り然り」、「しっかりしっかり」。

金刀比羅宮例大祭：琴平町（10月9～11日）総勢約700人の「御御幸」行列が本宮から参道を経て御旅所へ進み下る。

垂水神社湯立神樂：丸亀市（10月9・10日）深夜、神楽が演じられ湯立の行事の後、神官がご神体を湯に入れる。

中山農村歌舞伎：小豆島町（体育の日の前日の日曜）舞台（国指定重要有形民俗文化財）は草葺寄棟造りで、鍋蓋式心棒付き廻り舞台。

#### ■ 愛媛のまつり

とうどうおり：新居浜市大島（成人の日）市の北東部に浮かぶ大島に伝わる伝統行事。少年たちが集めた門松、笹、注連縄で造った「とうど」に火を放ち、焼いた鏡餅を家でぜんざいにして家族一同で食べる。

立川神樂：喜多郡内子町（3月5日）

川名津の柱松神事：八幡浜市（4月第3土・日曜）柱松（現在は杉）を海中で清めた後、藁を巻き、はしごをつるして神社境内中央に建てる。松明に神火をつけ、舞が舞われた後「柱松登り」で頂上の飾りや藁で作った祭神を四方にふり、五穀豊穣、海上の安全などを祈願した後、地上に投下。

今治春祭：今治市（5月上旬）継ぎ獅子

大山祇神社の一人相撲：今治市大三島（5月5日）稻の精霊である神と相撲をとり、豊作を願う。

どろんこ祭り：西予市（7月第1日曜）田植の順序を表現。

川津南楽念仏：西予市（8月6日）施餓鬼会で行われる。念仏と染め抜かれた浴衣に白足袋ぞうり履き、傘をかぶる。太鼓と鉦を一齊に打ち鳴らす。

五反田の柱まつり：八幡浜市（8月14日）戦国時代の伝説に基き、約400年続く火祭り。

山の神火祭り：喜多郡内子町（8月15日）4000を越す献灯された「オヒカリ」によって描かれた「山ノ神」という火文字、打ち上げ花火などが夜空を彩る。

**お廻踊り**：西条市（8月15日）雨乞踊り。  
**トンカカさん**：西条市（8月15日）浴衣で両手に扇を持って回しながら太鼓の伴奏にのって輪になって踊る。  
**河内口説**：宇和島市（8月16日）長編の叙事的な歌。踊り口説。  
**西条祭り**：西条市（体育の日の前々日、前日、14～17日）  
**櫂伝馬**：今治市（10月第2日・月曜）白い浴衣姿の漕ぎ手が2列に並び、船先に采配振りの少年、櫂に剣櫂を振る少年、中央に太鼓担当の少年と船頭が船に乗る。  
**北条の秋祭り**：松山市（10月中旬）風早の火事祭りとも呼ばれている。  
**新居浜太鼓祭り**：新居浜市（10月16～18日）平安、鎌倉時代にまで遡るといわれている。  
**社切り**：喜多郡内子町（10月21日）舍儀利。稚児行列のこと。  
**宇和津彦神社秋祭**：宇和島市（28日宵宮際・29日神輿渡御とお練り）  
**卯之刻相撲**：宇和島市（11月3日）  
**立間の鹿の子**：宇和島市（11月3日）7頭で「鹿の子」と称され、太鼓を叩いて勇壮な中に哀調をおびた踊りを展開する。  
**貝塚五ツ鹿踊り**：南宇和郡（11月3日）しまい（鹿子舞）と呼ばれ、10歳～12歳位までの少年5人で構成。

#### ■ 高知のまつり

**水あびせ**：幡多郡（1月2日）防火祈願の行事。むしろに正座した若者たちにバケツで海水を頭からあびせる。  
**御神戸開きと弓初め**：幡多郡（旧暦1月10日）  
**仁淀村秋葉まつり**：吾川郡（2月11日）長さ7mの鳥毛棒を投げあう「鳥毛ひねり」、約200人の時代絵巻の行列が約4kmの山里の道を進む。  
**どろんこ祭り**：高知市（4月第1土～月曜）早乙女たちが見物人に泥を塗り付ける。  
**吉良川の御田祭**：室戸市（隔年・西暦奇数年5月3日）[国指]拝殿で演じられ役者は全員男性。  
**土佐一條公家行列**：四万十市（5月3日）藤祭り。京都葵祭の公家行列に倣って行われる。総勢150名の参加者。  
**シットロト踊り**：室戸市（旧暦6月10日）大小の猿をかたどった縫いぐるみを飾った花笠の漁師たちが、鉦や太鼓で踊る。  
**土佐赤岡絵金祭り**：香南市（7月第3土・日曜）文化9年生まれの絵師金蔵（通称絵金）の現存する芝居絵大屏風約23点を展示。

**高地よさこい祭り**：高知市（8月9～12日の4日間）170団体約1万9千人の踊り子が市内を乱舞する。よさこい節に合わせた鳴子踊りが中心。  
**市野々の神踊り**：土佐市（旧暦9月15日直近の新暦日曜）締太鼓を胸につけた4人の子供を中心

にして、鐘打ち・歌い手・大きな扇を持った大人達がその周囲を丸く囲み、歌に合わせて一つになって踊る。

**佐喜浜の俄**：室戸市（10月第2日曜）ピエロまがいの化粧・服装の役者が、即興の洒落や風刺の台詞で見物人たちを笑わす。

**津野山神楽**：高岡郡（10月30日）[国指]

**蓮池の大刀踊**：土佐市（11月3日）太刀を打ち振り、紙片を切り散らす。

**八代の農村歌舞伎**：吾川郡（11月5日）

**早飯食い**：高知市（11月8日）炭火で焼いた味噌をおかずにつけて、山盛りにしたご飯を残さず急いで食べるのが作法とされている。

**本川神楽**：吾川郡（11月14日より12月初旬まで）[国指]大豆を四方八方へ撒きながら舞う「八幡の舞」やヒエを使う「初穂よせ」など。

**池川神楽**：吾川郡（11月23日）[国指]

**いの大国さま**：吾川郡（11月23日）鎌倉時代に作られた全国で唯一の八角形漆塗神輿（国指定重要有形民族文化財）。旧暦1月22日の春祭りには笹に短冊小判をつけた福俵。

**一条神社大祭**：四万十市（11月23～25日）「土佐の三大祭」のひとつ。

#### ⑤ 現代

**ツールとしてのまつり**：非日常の異空間に迷い込むことのできる「まつり」は現代の都市において集客のための重要なツールとしての役割を担っている。また、各都市の成り立ちを遡るとき、必ず通らなければならない地域文化の一つの要素といえる。

#### ⑥ これから

**ウェブ上のヴァーチャルのリアル化**：ウェブ上で作り上げられたその地域の料理レシピやキャラクターを現実の祭りの場でリアル化し、よみがえらせるということも考えられる。

**ツイッター上の「まつり」**：ツイッター上で、あるテーマにリアルタイムで多くの人々が群がり、盛り上ることを「まつり」といい、その話題となった実在する場所に駆けつけ、行列ができるという現象も現実にある。

**コンテンツのポテンシャル**：各都市における地域の祭りを考えるとき、「まつり」は都市の競争力を強化するための重要なアイテムといえる。又、差別化し他よりも抜きん出るためににはその祭りのコンテンツのポテンシャルをどのように考えるかということも戦略上必要であろう。

## 越中八尾 おわら風の盆と都市 環境デザイン

坪 正浩  
RACHI MASAHIRO  
(株)日本海コンサルタント  
JUDI代表幹事

1 はじめに

越中八尾は、富山平野から飛騨の山々を結ぶ街道に細長く発達した町である。富山市中心市街地から南へ約 17 km、JR 高山本線で約 25 分の位置にある。八尾の中心市街地は、井田川の河岸段丘上にあり、坂が多いのも特徴である。1290 年（正応 3 年）創建の聞名寺の門前町として、1636 年（寛永 13 年）に町建てのお墨付きが下り、東町、西町の二つの町が開かれた。

また、飛騨との交易の要衝、近隣集落の物資の集散地として、養蚕・和紙などの商いで栄え、さらに、歴史的な町並みは飛騨大工の流れをくみ、染物などの職人町としての往時を忍ばせている。

この中心市街地の東町、西町、今町、上新町、鏡町、下新町、諏訪町、西新町、東新町、天満町の10町が八尾旧町と呼ばれる。人口は、約2800人で、ピーク時の半分以下の状態である。

2005年（平成17年）に市町村合併が行われ、現在は富山市八尾町となっている。ここでは、八尾の風土や歴史文化などに培われた「おわら風の盆」の紹介と都市環境デザインについて述べるものとする。

## 2 越中八尾おわら風の盆

毎年、9月1日、2日、3日の3日間に開催されるのが「おわら風の盆」である。その3日間に20万人以上の観光客が訪れる。おわらの舞台は、旧町とJR越中八尾駅を結ぶ福島地区をあわせた11町からなる。

おわらは、唄い手と胡弓、三味線、太鼓を演奏する地方(じかた)衆のおわら節にあわせて、

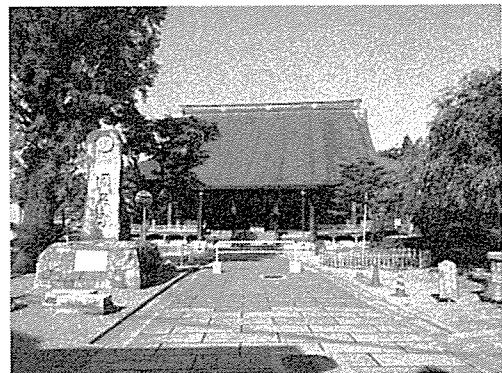
町ごとにそろいの法被と股引の男衆と浴衣姿の女衆が、編み笠を被って踊るのである。

その3日間は、一晩中、おわら節が町に流れ、踊りながら町を練り歩くのである。おわらは、11町に支部を持つおわら保存会が中心となって、代々受け継いできた伝統芸能である。

おわらの歴史は古く、元禄のころといわれて  
いる。日常生活の喜びを面白おかしく表現しな



### 井田川と河岸段丘に並ぶ町家



浄土真宗の聞名寺

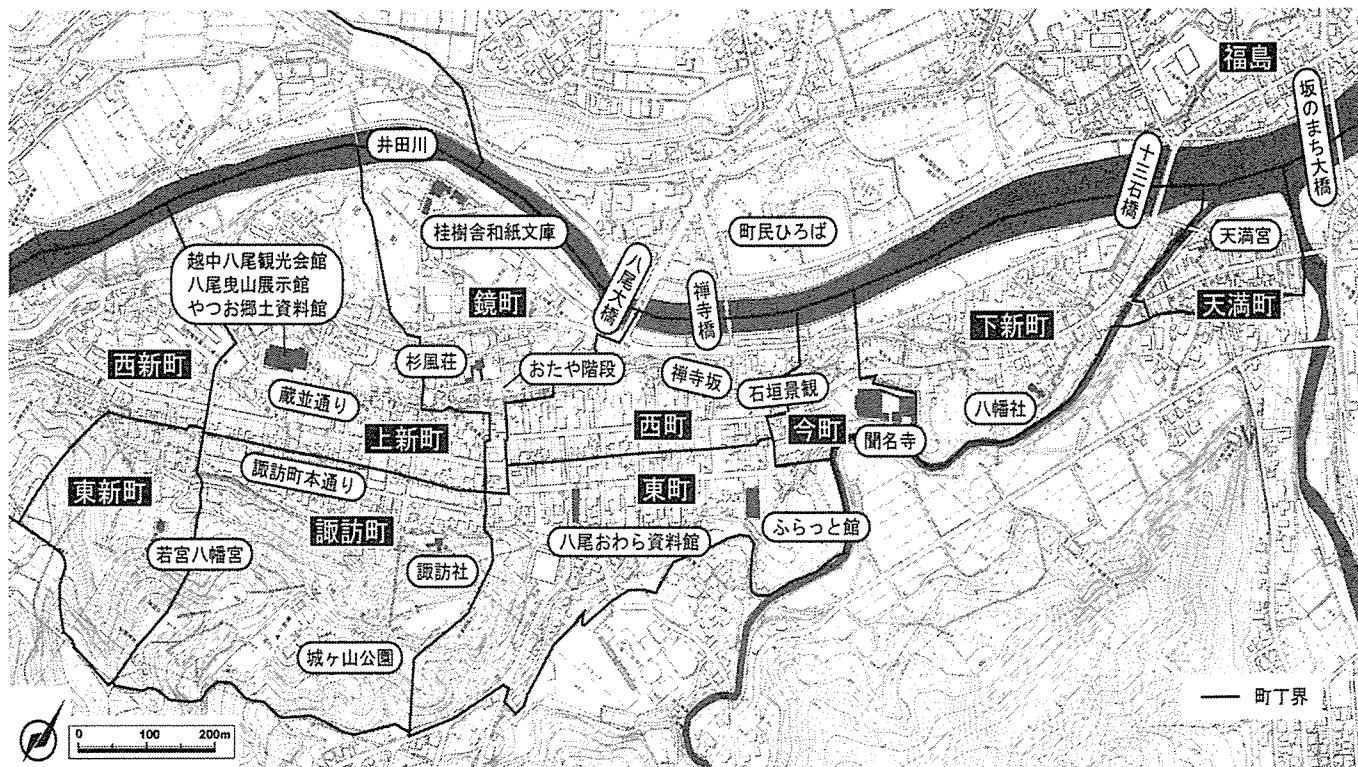


図 八尾の中心市街地

がら、町を練り歩いたことが町流しの始まりといわれている。おわらの語源は、歌詞の間に「おおわらい（大笑い）」の言葉を挟んで踊ったという説や、農作物の豊年を祈り、藁の束が大きくなるようにという思いから「おおわら（大藁）」という説もある。また、風の盆は、立春から数えて二百十日が台風の厄日とされてきたことから、台風の被害が起こらないことを祈る行事として名づけられた。

おわらには3通りの踊りがある。主に町流しで踊られ、最も古くからある「豊年踊り」と、主に舞台で披露され、かかし踊りともいわれる勇壮な「男踊り」、四季の踊りともいわれる「女踊り」がある。これらは、新しいものを取り入れながら、昇華し洗練されてきて、現在の形となっている。

また、毎年5月3日には、八幡社の春季祭礼である越中八尾曳山祭が旧町で開催される。江戸時代の町人文化を象徴する祭りであり、6基の曳山が町内を巡回し、獅子舞がその先頭を切る。

### 3 おわらによる観光まちづくり

おわらによる観光が本格化するのは、1950年（昭和25年）に越中八尾観光協会が設立された以降である。初代会長は、おわら中興の祖ともいわれている、医師の川崎順二がつとめた。観光協会の最初の集客目標は、「3日間で15万人」であり、そのため、臨時列車やバスを運行し、町内には無料休憩所を設けるなどの取り組みが行われた。

しかし、おわらはあくまで地元住民で受け継がれてきた伝統芸能である。その繊細で郷愁をそそる踊りは観光資源として十分であるが、住民は観光客のために踊っているわけではないということで、おわらで観光振興を目指す観光協会と、伝統芸能として自らが楽しむことを目的とするおわら保存会の対立構造が続いたのである。

その後、観光協会の努力もあり、1982年（昭和57年）に「風の盆前夜祭」がスタートし、1985年（昭和60年）には旧養蚕試験場跡地に観光拠点として「曳山展示館」が開設された。また、1996年（平成8年）に町家でのアートイベント「坂のまちアート」が、1998年（平成10年）に冬期間のイベント「越中八尾冬浪漫」が、2000年（平成12年）に観光会館で月2回、おわらが鑑賞できる「風の盆ステージ」が、2003年（平成15年）に地産地消による「なりひら風の市」が開催されている。このように、八尾はおわらだけでなく、通年型の観光地として進化しているのである。



おわらの踊り(おたや階段下の広場)



男衆と女衆、子供たちと大人の踊り手



唄い手と胡弓、三味線、太鼓の地方衆



ぼんぼりに灯りがともり、町は多くの人が賑わう

#### 4 八尾地区における景観まちづくり

##### (1) 八尾地区における景観まちづくりの歩み

旧八尾町では、1986年（昭和61年）に当時の建設省の「地域住宅計画（H.O.P.E.計画）」に取り組むこととなった。これに呼応し、地元の若手建築関係者からなるアメニティ俱乐部が、旧町の約1000戸の町家などをボランティアで調査した。また、同年に諏訪町本通りが「日本の道100選」に選ばれている。さらに、地元の工務店が「八匠」という組織をつくり、八尾町地域住宅相談所を開設し、実際の家づくりの相談に乗るようになった。

1990年（平成2年）には、歴史的地区環境整備街路事業が導入され、主要な道路の石畳舗装や曳山展示館前の広場整備などが進められていった。

現在は、旧町へのエントランスである禅寺坂の修景整備が進み、また、おわらの会場のひとつでもある、おたや階段下の広場の修景整備などが行われつつある。

##### (2) 景観形成のルールづくりと助成制度

建物は、切り妻平入りの町家が多く、黒瓦の屋根、白漆喰塗りと下見板張りの外壁で、軒の出し梁や出桁・腕木などによる深い庇が陰影のある表構えをなしている。開口部は千本格子で、2階は手摺りが設けられているのが伝統的な様式である。

富山市では、2005年（平成17年）に景観まちづくり条例を施行し、そのなかで旧町のうち、鏡町、上新町、諏訪町、西町の一部を景観まちづくり推進区域に指定している。この区域指定に伴い、景観まちづくり基準を設定し、建築物の位置、高さ・階数、屋根・庇、外壁、開口部などをはじめ、工作物、広告物、土地の区画形質の変更などについて基準を定め、区域内で一定の規模以上の建築行為等を行う場合は、市に事前の届出を行い、計画内容が景観まちづくり基準に適合しているかを審査している。

また、2007年（平成19年）から5年間を限定し、高額の補助による町並み修景事業が展開されている。現在までに48件の修景整備が進んでいる。

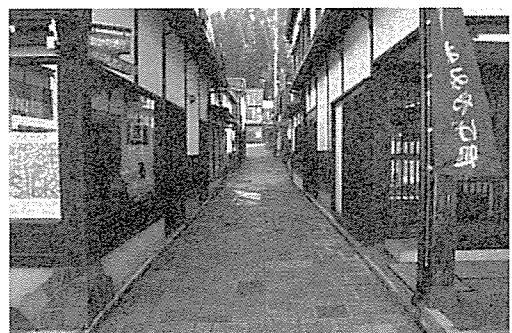
平成22年度からは、旧町の残る6町においても修景補助の区域が拡大されている。また、景観法に基づく景観計画が策定中であり、これまで、住民や八匠などにより守られてきた八尾の伝統的な建築様式が、景観まちづくり条例の自主条例で守られ、さらに景観法による景観計画のもとで保全、創造されていくとしているのである。



日本の道100選に選ばれた諏訪町本通り



旧町へのエントランスである禅寺坂と石垣



横丁(路地)が多いのも特徴



町中に点在する地蔵尊

## 5 おわら風の盆と都市環境デザイン

おわらは、地元住民の心の拠り所である。八尾では、住民の一年間はおわらのためにあるといつても過言でないであろう。また、例えば町並み整備や道路や広場の空間整備に当たっても、その整備はおわらが映えるか、おわらへの配慮が十分になされているかが住民の関心事である。

都市環境デザインとしては、諏訪町本通りに代表される主要な道路から広場、路地に至るまで、石畳舗装などが施されている。今後は、主要な道路の電線類の地中化などが望まれるところである。また、町並みは本物志向というより、やや民芸調になっていくものもあり、景観まちづくり条例により景観形成のルールはできたが、町並みのレベルをより高めていくのは、やはり住民の意識にかかっていると考えられる。

一方、これまでの八尾のまちづくりは、行政や観光協会などの各種団体が主体であり、観光客は増えたが、住民の主体的な参加はあまりみられなかつた。今後は、住民が主体的におわらを守り、継承しているように、まちづくりにおいても住民の主体的な取り組みが求められる。現在、西町や鏡町、上新町では住民主体でまちづくりを考えようという活動が始まっている。

最後に、おわらは八尾の遺伝子であり、八尾に住み、そこで暮らし、住民の体に染みついたものである。おわらに参加するため帰郷する人も多い。また、歴史的な町並み、坂道、石畳、地蔵尊、ぼんぼりの灯り、エンナカ（水路）の水音、和紙や染物などが織りなす生活文化の質が高いのである。今後は、これらをいかに維持・向上させつつ、次代に継承していくかが課題である。

### 参考文献

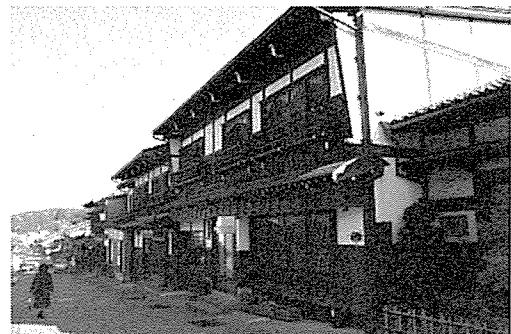
- ・越中八尾 おわら風の盆、北日本新聞社、2004
- ・定本 風の盆おわら案内記、成瀬昌示編著、言叢社、2004
- ・八尾風の便り四、越中八尾観光協会、2005
- ・越中八尾観光協会法人化までのあゆみ、越中八尾観光協会、2007
- ・越中八尾おわら風の盆公式ガイドブック、越中八尾観光協会、2008
- ・越中八尾曳山、越中八尾観光協会・八尾町曳山保存会、2008
- ・観光まちづくり、西村幸夫編著、学芸出版社、2009



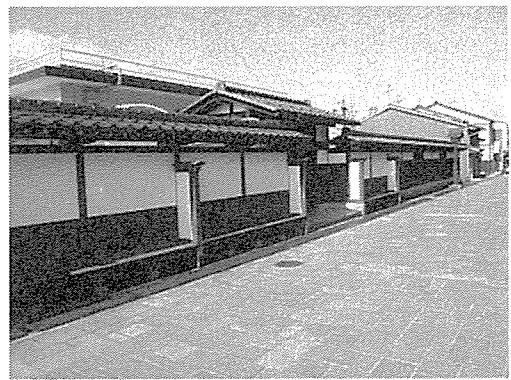
越中八尾観光協会が入る曳山展示館



おわら資料館



諏訪町本通りと町家



町並みに調和した郵便局の板塀

## 仙台・平塚

## たなばた祭り

## 白濱 力

SHIRAHAMA TSUTOMU

JUDI 代表幹事

環境デザイナー



[最も多い吹流し型飾り]



## 仙台七夕まつりの概要

東北の三大祭りのひとつに数えられている仙台七夕まつり。宮城県仙台市で開催され、五節句のひとつ「七夕」にちなんで毎年行われている年中行事のお祭りである。地元では「たなばたさん」といって親しまれている。例年 200 万人以上の観光客が訪れる。七夕まつりは例年 7 月 7 日の月遅れの 8 月 7 日を中日として、8 月 6 日から 8 日までの 3 日間にわたって行われる。大規模な飾り付けがされるのは一番町や中央通りなどのアーケード街や仙台駅周辺などを中心に行われる。それ以外の商店街では組織ごとに店舗や家庭など個別の飾り付けなどを市内各地至るところに大小様々合計 3000 本をも飾り付けがなされる。文字通り仙台の街中が七夕一色になる。周辺自治体の各地の商店街などでも同時に飾りつけがなされ、エリアを超えた広域な祭りとなっている。

仙台七夕まつりは特に全国各地へ七夕まつりに影響を与えてきたことから東京周辺などの駅や空港へ七夕飾りの制作業者もあり、日本の夏祭りの代表文化を移出したとも言えよう。



[一番町の上品な飾り]



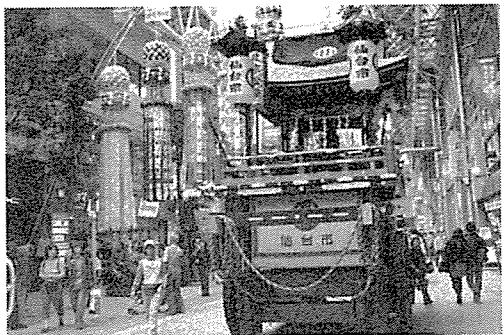
[上空からみる仙台市街]

と商店街の有志らによって大規模に七夕飾りが行われた。見事に商店街は見物客で賑わい「七夕まつり」は成功した。翌年の昭和3年から新暦の月遅れ（8月6日・7日・8日）に開催することとし、当時の東北産業博覧会のイベントとして「飾りつけコンクール」を行い、それ以降、豪華で華麗な飾りが行われるようになった。これにより、庶民の風習であった「七夕」は「七夕祭り」という商店街の販促を目的としたイベントへと転換した。しかし、第二次世界大戦後は昭和21年（1946年）仙台空襲で焼け野原となつた商店街に、わずか52本の竹飾りで仙台七夕は復活した。翌昭和22年の昭和天皇巡幸の際、沿道に5000本の竹による七夕飾りを大規模に並べて真に「七夕祭り」が復活したのである。日本経済が高度成長を迎えた頃には、「東北三大祭り」の1つに数えられたことで全国から多くの環境客が押し寄せ、全国でも有数のスケールを誇る七夕まつりとなった。

昭和45年（1970年）からは「動く七夕パレード」（現「星の宵まつり」と「仙台七夕花火祭」として夜のイベントも行われるようになった。

昭和58年（1983年）からは「夕涼みコンサート」（現「Starlight Explosion」）が始まり、無料の屋外音楽イベントの面も持ち合わせるようになった。

祭りの運営は現在、仙台市と仙台市商工会議所が支援のもと、「仙台七夕まつり協賛会」が主催し執り行われている。



[仙台市の山車]



[オープンモールの飾り]

## 仙台七夕まつりの歴史

江戸時代初期、仙台藩伊達政宗が婦女に対する文化向上の目的で七夕を奨励したため、当地で盛んな年中行事の一つになったともされる。七夕まつり自体は年中行事として江戸時代中期頃から全国各地で行われている。1783年（天明3年）には、天明の大飢饉の発生による荒廃した世俗の世直しを目的に藩内で盛大に行われた。1873年（明治6年）の陰暦から太陽暦にかわった事を境にして年々七夕の風習は廃れ始め、第一次世界大戦後の不景気で一時は衰退した。

昭和2年（1927年）不景気の状況を打破しよ



[周辺部旧家の飾り]

### 仙台七夕の飾り付けの特徴

飾りは毎年各店舗が数ヶ月前から手作りで行われ豪華絢爛さを競い合う。8月4日早朝に各商店街では長さ10m以上の巨大な竹を山から切り出し、小枝をはらい飾り付けの準備を行う。一本の制作費は数十万から数百万もするものもあると言われている。吹流し五本1セットで飾るのが仙台の習わしとなっているそうだ。

飾りにはそれぞれ金、銀、銅の各賞が与えられその標しとしてプレートが取り付けられる。

アーケード施設の多い仙台で、天候に左右されずに晴天のもと風にたなびく繊細な和紙飾りはまさに非日常空間をつくり出し街の景観も優美となる。人ごみを鬱陶しさをのぞけば、子供が遊ぶボールプールや布団蒸しで周りに囲まれる安心感や癒しのような感覚が七夕飾りのトンネルにもあるよう思う。人ごみの中、ゆっくりと歩いていると和紙の暖かさがほおをなでるように通りを歩いている様で心地よさを感じるのである。お囃子や躍動感満ちあふれる祭りとは違った、飾り付けにより異空間を創出する七夕まつりならではの特徴であろう。しかしながら一番通りなどオープンモールとなっているところもあり、雨が大敵となっている。その時は折角の飾りつけを濡らすまいと大慌てでビニール袋に飾りをしまわなければならない。アーケードのない四丁目商店街では適宜天候に合わせて飾りつけができるように展示してある。いざれも夜になると一旦飾りを降ろし折り畳むかビニール袋に包んで小さくし通行人が触れられないように高く引き上げている。深夜早朝での破壊行為をされるのを防いでいる。

賑わいとしては周辺部での昔懐かしい素朴な七夕飾りは風情があり伝統を感じる。多くの観光客で賑わうのはやはり中心部の中央、東一番町、駅前の各通りである。

参考までに七夕飾りの笹飾りには7種類の飾りがある。それぞれの飾りに意味がある。

- ・ 短冊：学問や書の上達を願う。
- ・ 紙衣：病や災いの厄除、裁縫の上達を願う。
- ・ 折り鶴：家内安全、健康長寿。
- ・ 巾着：商売繁盛を願う。
- ・ 投網：豊漁、豊作を願う。
- ・ 肩籠：清潔と儉約を願う。
- ・ 吹流し：織姫と織糸

現在はくす玉が取り付く吹き流しが飾りつけの中心となっているが他の6種類の飾りも諸所に見られる。その他の飾りとして、「からくり七夕」がある。これは数体の糸操り人形がのる小型舞台で、一定の動きが自動で繰り返される。また、仙台七夕まつりの初日が原爆の日の8月6日であることから「平和七夕」が行われ全国から寄せられる100万羽もの折鶴から18万羽を5

本の吹流しにして飾られる。折鶴は花輪状にして観光客に平和のメッセージとともに贈られるそうだ。

次に仙台七夕まつりを模範として全国に広がっていった代表的な七夕まつりとして「湘南ひらつか七夕まつり」をみてみることとする。

### 湘南ひらつか七夕まつり

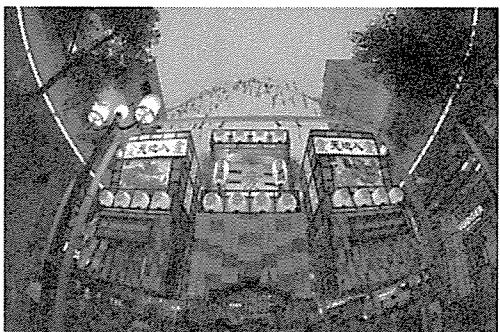
湘南ひらつか七夕まつりは神奈川県平塚市で開催される七夕祭りである。全国から240万人もの観光客が訪れる大きなまつりである

関東三大七夕（平塚、狭山入間川、茂原）まつりの一つである。

開催日程は例年7月7日の土日を挟んだ前後数



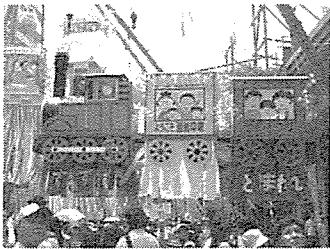
[一般飾り]



[夜間は照明が入り行灯になり美しい]



[行灯型 かなり大型である]



[庶民的な飾り付けも多い]

日間に行われてきたが最終日を日曜日にするため2009年からは7月第一木曜からの4日間の開催になり、開催日が7月7日に被らない年も出てくる（2009年は7月2日（木） - 5日（日）の開催）。7月開催の由来は、当時、新暦での開催地がなく注目度が増加し飾り物が旧暦の開催地に対し譲渡できる利点がある事などから決められた。七夕飾りは市内全体で約3,000本、湘南スターモール（旧東海道）には大型の竹飾りが83本飾り付けられている。七夕飾りは各商店が費用を出すことから、年々負担となり出展者の減少等から展示規模の縮小化が懸念される。他には竹飾りによる市民飾りが近年顕著となっている。飾り付けは大型化し動力が仕込まれて動くものや内照式の吹流しなどあり昼間とは違う夜のお祭りとして雰囲気が楽しめる。ここには仙台七夕にはない、平塚の七夕ならではの夜の七夕がある。また仙台とは異なり、歩道上だけではなく車道を車両通行止めとして車幅いっぱいを使って8~10m近くの高さの竹竿を飾り付ける。和紙を多用して七種類の飾り方をレギュレーションとして持つ仙台の七夕飾りと比べ、デザインの自由度はかなり幅があり、また素材も雨に濡れてもしまい込む事が出来ない事からビニール系素材のものが多いもの特徴的である。店舗名や飾りへの様々なグラフィック表現を見ると、仙台の上品で拡張高い民芸調のものと比べ、庶民的で親しみのある飾り物である。その分、車道を使い空間が広いことも手伝い、都市空間に負けないくらいの大きさと連続性、そして何より長さと高さを競う事からも、竹竿の先端がしなって程よくダイナミックな緊張感を生んでいることが最大の魅力である。

### ひらつか七夕まつりの歴史

戦後 海軍火薬廠があったため、1945年の空襲では焼野原となった平塚で復興まつりが開催された。その後、仙台の七夕祭りを模範とし平塚市商工会議所、平塚市商店街連合会が中心となり、第1回「平塚七夕まつり」が1951年7月に行われた。1953年には「平塚七夕音頭」が発表され回数を重ねるごとに規模が拡大してきた。1957年の第7回平塚七夕まつりからは、平塚市の主催となった。

第23回平塚七夕まつりでは、駅ビル建設問題などの諸問題から一旦は途絶えたものの商工会議所の主催で1993年の第43回から現在の「湘南ひらつか七夕まつり」との名称変わり開催されようになった。

このステージ見物を目的にするのなら、レジヤーシートなどを携行することをお勧めする。

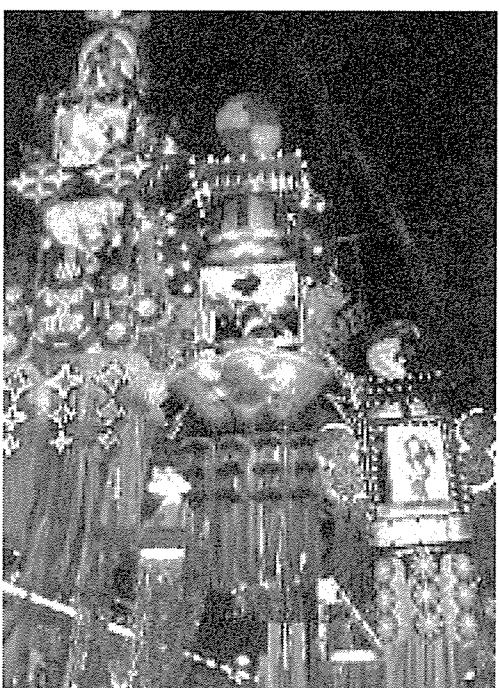
商店街通り（メインストリート）

数百メートルに渡って様々に趣向を凝らした

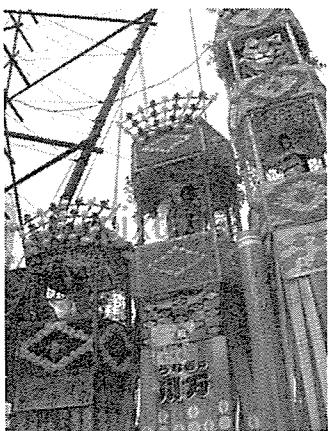
竹飾りが展示されている。慣習的に飾りの下を結ぶ観光客も多い。大小さまざまな飾り物がある。現在私は湘南スターモール商店街アーケードの改修事業に携わっているが、その一環として、この七夕まつりの架台や取り付け方法などの改善を検討している。現行の大掛かりな飾り付けは飛び職人の技術と資材が必要である。しかし近年、その職人と資材が時代の趨勢により年々減少してきており、将来的には今のような飾り付けが困難になる。更にはアーケード自体に飾りをくくり付けている状態で、今迄もつてきているものの、アーケードの強度上の検証を行っているわけではない。この魅力ある祭り 자체を衰退させぬよう、新たな手法と運営と方法を未来のためにも充分に検討を重ねて、最善の改善策を作つて行く必要があると考える。



[車道に覆いかぶさるように取り付く]

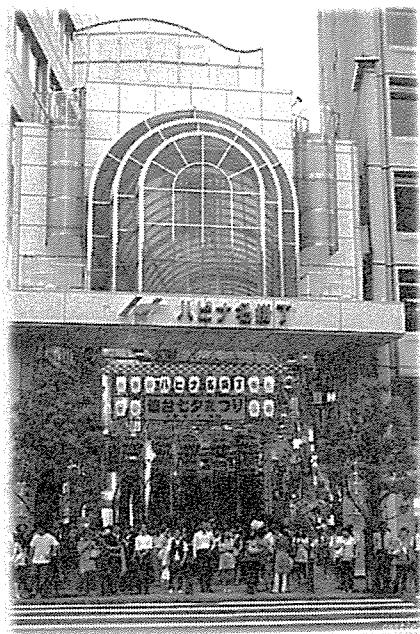


[照明が入ると絢爛である]



[豪華な飾り]

## 仙台七夕まつり／平塚湘南七夕まつりと 都市景観



[アーケード街入り口を飾る七夕-仙台]

どこの祭りもその期間だけは「まつり」という印籠をかざす事で街中が無礼講で賑わい、そのエネルギーと情熱とともに非日常を楽しみ、日頃の憂さをこの時とばかり晴らせるアドレナリン全開の楽しいひとときであるように思われる。

我々は日常空間と異なった空間に迷い込む事で気分を高ぶらせ幸福感を得るところがある。それは新たな発見であったり期待であったり、日頃の様々な鬱積や邪念を空間を変える事で捨て去れるような錯覚に入り込める事が出来るからなのかもしれない。

そこで一般的に普通の市民はその行為として、休日になると日常生活をしている住宅街から人ごみの多い商店街や繁華街、またはこ奇麗に装飾が施されたショッピングセンターへと駆け出していく。そこには自分たちの生活空間にはない飾り付け（商品）に溢れている。街ではそれを誇示するかのように大きな看板類によって彩られるように飾り付けがなされている。景観の善し悪しは別としてこの非日常性は我々を異空間に放り込ませてくれるのである。しかし、週に一度程度の異空間の体験も、その商業地で働いている人たちにとってはそれも日常である、何ら代わり映えのしない風景であるだろう。また生活者もその頻度が増すに従って、その意識は日常性へとかわっていき、模様替えでもしなければいつもの退屈な空間となる。

私は冬になると雪が降るのをとても楽しみにしている一人である。電車が止まって通勤が大変にはならないだろうか？駅までころばずに歩いて行けるだろうか？などと心配事するよりも先に、辺り一面が真っ白な白銀の世界に一晩で

一変してしまうギャップがとても楽しいのである。それはとかく日常に不満の多い街並が、「白」という意味を持たない清らかな色で全面を覆ってくれるからである。あたかも腐った様々なバグの入ったデータで埋め尽くされたHDのすべてを再起動で奇麗にしてくれるかのようである。その時ばかりはデスクトップは買ったばかり頃のように何もなく真新しく美しい。この日常の多くに痘痕や醜さを隠して、いつもとは違う異空間の美しい街並に変化する事がうれしいのである。

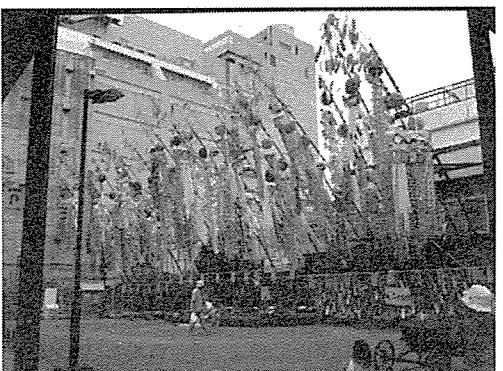
多くの人達による「まつり」は、まさにその一時、一瞬のために一丸となって取り組み一大イベントである。とかく七夕まつりは動きがなく、期待していたよりもつまらないという評価をもらう事もあるだろうが、その時間を楽しめるのは一年でその時だけなのである。いつもと違った気分を飾り付けという仕掛けにより非日常を「装う」ことで、雪景色のごとく日常と違った街が一瞬で出来上がるるのである。

そこでも日常の多くに痘痕や醜さを隠して、いつもとは違う異空間を造り上げてくれる。市民はその街の景観と時間の優しさとギャップを毎年楽しんでいるように思われる。

しかしながらそのギャップのベースとなる底辺の基準と、「まつり」のような非日常空間をつくり出す際の理想空間のレベルを街づくりとして引きあげて考えて行く事が大切である事には変わりない。大きな看板類も一時の七夕飾りも、雪景色のように全てを奇麗に消しさってはくれないのでだから。



[アーケード内の七夕飾り-仙台]



[市民飾り-地元小学生制作による飾り-平塚]

## ねぶたが根づく 津軽の街

松村 みち子

MATSUMURA MICHIKO

タウンクリエイター

広報委員長

### 1 津軽とはどこか

津軽の夏はねぶたで燃える。

ここで「津軽」とは「広義の津軽地方」を指す。青森県人でない者にとっては、津軽とは青森県全部の古い国名のように思えるが、そうではない。青森県の西部地域が「狭義の津軽地方」で、藩政時代に津軽氏が支配した領域（弘前藩・黒石藩の領域）にほぼ等しい。今の自治体では、弘前市、黒石市、平川市、つがる市、五所川原市、ならびに中津軽郡、南津軽郡、西津軽郡、北津軽郡が該当する。「広義の津軽地方」とは上記の地域に青森市と東津軽郡を加えたものだ。

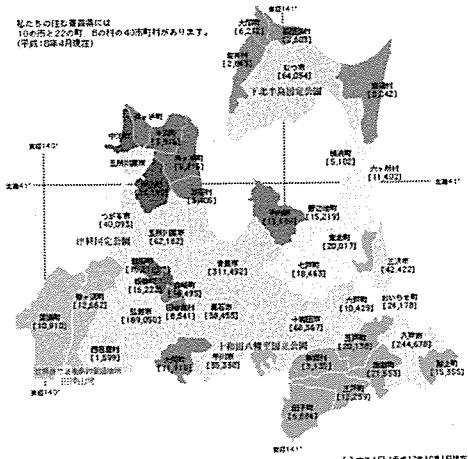


図1 青森県地図（青森県庁 キッズページより）

青森県の地図を見てみよう。図1は青森県庁のホームページ（キッズページ）にある青森県地図である。このうち青森市、平川市を含む左側が「広義の津軽地方」で、だいたい青森県の半分を占める。青森県庁の6つの地域県民局のうちの3つ「東青地域県民局（青森市、東津軽郡）」「中南地域県民局（弘前市、黒石市、平川市、中津軽郡、南津軽郡）」「西北地域県民局（五所川原市、つがる市、西津軽郡、北津軽郡）」が相当する。

「ねぶた」とは弘前市や黒石市、平川市など狭義の津軽地方の言い方であって、青森市や青森市周辺では「ねぶた」と言っている。尤も年輩の人の発音は、地元でない人には「ねぶた」なのか「ねぶた」なのかほとんど区別がつかない。また、五所川原市のものは「立佞武多（たちねぶた）」と言っている。

津軽地方ではない地域、たとえば下北半島のむつ市や大間町など、県内各地でもねぶたやねぶたが行われているのだが、全国的に有名なのが「青森ねぶた祭」と「弘前ねぶたまつり」なのである。この2つは1980年に国の重要無形民俗文化財に指定された。近年は、巨大な立佞武多が街を進んでいく「五所川原立佞武多」が注目されるようになってきた。図2の「青森県の観光スポット」で紹介されているのも「青森ねぶた祭」、「弘前ねぶたまつり」、「五所川原立佞

武多」の3つである。

「ねぶた」あるいは「ねぶた」の語源には諸説あるが、最も有力なのが、農作業の睡魔（眠たし）を払うというもの。「眠り流し」の行事が「ねぶた祭り」の発祥とされる。

道路空間を舞台に繰り広げられる夏の夜の祭典を3つ取り上げたい。ただし五所川原は今回訪問できなかった。

### 2 城下町としての弘前

弘前ねぶたまつりの舞台となる弘前市は、人口が約18万4,700人（2009年7月時点）。リンクは日本一の生産量を誇る。

歴史は古く、『日本書紀』の中すでに「津軽」として登場している。655年（齊明天皇元年）津軽蝦夷6人に冠位を受けたとあり、これが正史に登場した最初だとされる。鎌倉・室町時代には海運などで栄えた。その後、初代津軽藩主となる津軽為信（ためのぶ）が津軽の統一を成し遂げた。

為信は領内の開発を進め、1603年（慶長8年）に町割りや城の建設を計画した。図3は「寛永の絵図」にある1643年（寛永末期）ころの町割りである。



図3 寛永末期ころの町割り

（出典：弘前市ホームページ）

城は2代藩主信枚（のぶひら）が1611年（慶長16年）に完成させた。以後260年間、弘前城は、津軽氏の居城として津軽藩政の中心的役割を果たした。

5層の天守は1627年（寛永4年）落雷により焼失し、現存の天守（写真1）は1811年（文化8年）に9代藩主寧親（やすちか）が完成させたものである。江戸時代に再建された天守としては、東北地方に現存する唯一のものであり、重要文化財に指定されている。現在は弘前城史料館になっている。

弘前城は1895年（明治28年）に弘前公園として開放された。史跡指定面積は約49.2ha。春になれば2,600本余りの桜が公園を埋め尽くし、

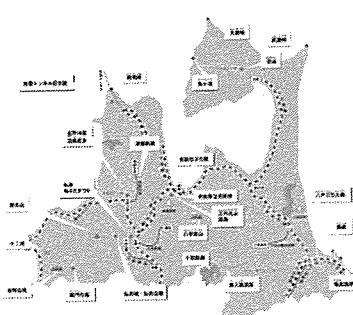


図2 青森県の観光スポット  
(出典：青森県庁ホームページ)

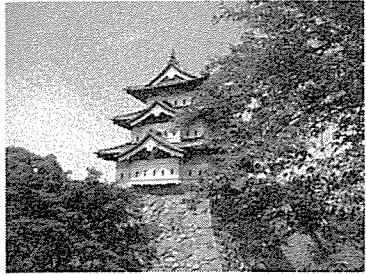


写真1 弘前城天守 (国指定史跡)

日本有数の桜の名所としても知られる。

城下の東南端にあるのが最勝院五重塔 (写真2)。市内の八幡町にある八幡宮は、弘前城の鬼門の守りとして、旧岩木町から移転されたものだ。

弘前市は幸いにも第2次世界大戦による戦災をまぬがれたため、市内には多くの文化遺産と豊かな自然が残されている。藩政時代からの街並みや古い町名も各所に見られる。弘前城をぐるりと囲むように、亀甲町 (かめのこうまち)、若党町 (わかとうちょう)、馬喰町、紺屋町、五十石町 (ごじっこまち)、馬屋町 (まやちょう)、鷹匠町 (たかじょうまち) と続く。

為信が城の築城と城下の建設に着手したときの最初の町割りである亀甲町は、兵法にいう城を守る四神(東西南北の神)の北の神、玄武(亀のこと)にちなんで命名されたと伝えられており、以来一度も町名が変わっていない。弘前にはこのように、今まで400年間一度も変わらない町名が多く残されている。市教育委員会では、城下町特有の町名について、由来や特徴を紹介するとともに、市内41か所に「古町名標柱」を設置している (写真3)。



写真3 古町名標柱

写真提供 弘前市教育委員会文化財保護課

また、古町名の説明と「古町名標柱」の設置場所を紹介したパンフレットも教育委員会によって発行されており、市役所2階の教育委員会のほか、弘前駅観光案内所、弘前市立観光館、弘前市まちなか情報センターでも入手できる。

近年、多くの都市で由緒ある町名を捨て、新しい住居表示に変えてしまっているので、古い町名を大事にしている弘前市の取り組みは高く評価したい。

### 3 弘前ねぶたまつり

「弘前ねぶたまつり」は毎年8月1日から8月7日まで開催される。ねぶたの運行は夜 (午後7時頃から) であるが、最終日の7日は「なぬか日」と呼ばれ、この日だけは午前 (10時頃

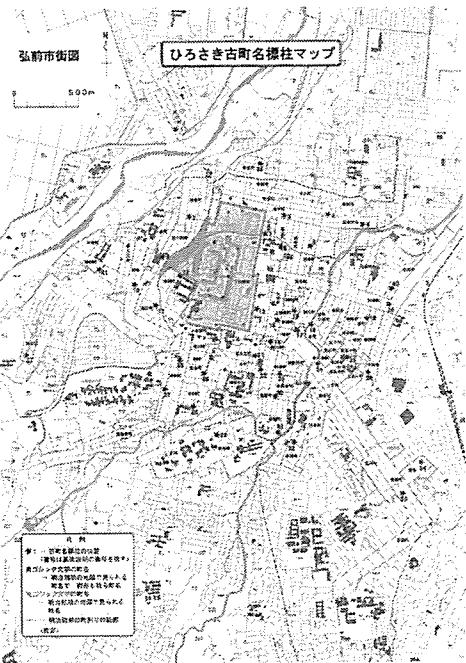


写真4 ひろさき古町名標柱マップ

から12時頃まで) 運行される。

まつりの由来には、いくつかの説がある。

1つは平安時代初期、征夷大将軍・坂上田村麻呂が蝦夷征伐の際に始めたとする伝説、2つめは1593年 (文禄2年) 7月、初代藩主為信が京都で豊臣秀吉に大灯籠を見せたのが始まりだという伝承、そして3つめは江戸時代元禄期の後半 (18世紀初頭以降)、七夕祭りの松明流しや精霊流し、眠り流し、盆灯籠などから変化して、華麗に発展してきたという説。この3つめがどうやら定説になっているようだ。

語源としての「眠り流し」のとおり、暑さの厳しい、しかも農作業の激しい夏期に襲ってくる睡魔を追い払うための行事、もともとは村中で一団となって、様々な災いや邪魔を水に流して村の外に送り出す「農民行事」であったのだ。ねぶたの運行は夜であるが、巨大なものから小さいものまで80台以上のねぶたが街を練り歩くわけで、スタート地点には星頃から続々とねぶたが運ばれ、待機している。にわか雨に濡れたりしないよう、多くは透明のあるいは青いシートで覆われている。(写真4)



写真4 待機しているねぶた

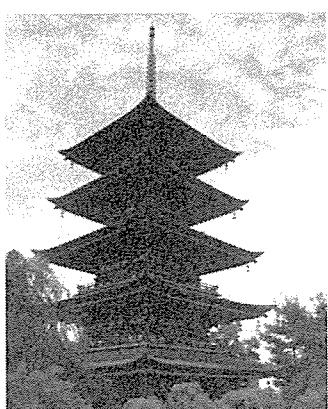


写真2 最勝院五重塔

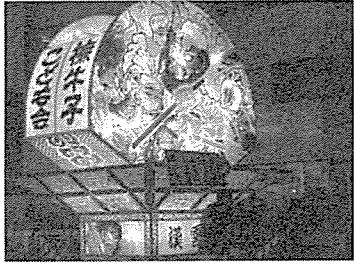


写真5 ねぶたの主流は扇型

笛や太鼓の囃子方（はやしかた）、曳き手たちも集まり始め、まつりの気分が高まっていく。

弘前のねぶたの主流は、写真5のような扇型だ。初代藩主津軽為信の幼名が「扇」であったこと、さらに扇は末広がりでめでたいということから扇型になったらしい。

ねぶたの表側（正面）の絵を鏡絵といい、「三国志」や「水滸伝」を題材にした武者絵が描かれている。裏側（後面）は見送り絵といい、愁いを含んだ美人画となっている。また、扇の下の皿のようになっている部分は「開き」といい、どのねぶたにも共通して「牡丹（ボタン）」の花が描かれている。牡丹は津軽藩主津軽家の家紋なのである。その下に書かれている漢字「漠雲」は右から「雲漠（うんかん）」と読み、中国の「天の川」を意味している。つまり、ねぶたまつりは「七夕まつり」なのだ。

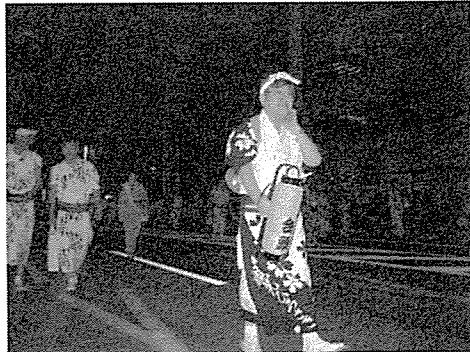


写真6 弘前ねぶたを先導する弘前商工会議所副会頭  
永澤 弘夫さん

午後7時。待ちに待った弘前ねぶたまつりの隊列が動き出した。提灯を持って先導するのは弘前商工会議所副会頭の永澤弘夫さんである。先導役は日によって違うが、副会頭がこの日の担当であった。

弘前のねぶたは昔から町内会単位で出され、運行されてきた。市の資料によると、運行の隊形も、昔から小さいものから順に型どおりに並ぶ。一般的には、左右に消防組合名の分団印の弓張り提灯を揚げ、見物人を制しながら先頭をきる。その後に町名を印した高張り提灯、先灯籠（町印）、錫杖持ち、町内の面々と続き、1人持つの扇灯籠、2~3人担ぎの小さなねぶたと小さなものから順に並ぶ。最後が大型ねぶたで、車輪が付いていてゆっくりと引いていく。ねぶたの後ろは笛や太鼓の囃子方の一団。そして次の町内へと変わる。

街灯が消された夜空に幻想的なねぶたが浮かび上がる。極彩色豊かに描かれた鏡絵は、どれもぐっと心を捉える迫力がある。それでいて絵の印象はどこか繊細で風流だ。

見送り絵も、妖艶でまばゆいばかり。

鏡絵、見送り絵とも、絵師によってそれぞれ個性があり、見飽きることがない。

この扇型ねぶたは、毎年骨組みのみ使い回し、絵は毎年新しく描き直す。この街に大勢いる絵師が、ねぶたまつりを支えている。



写真7 鏡絵

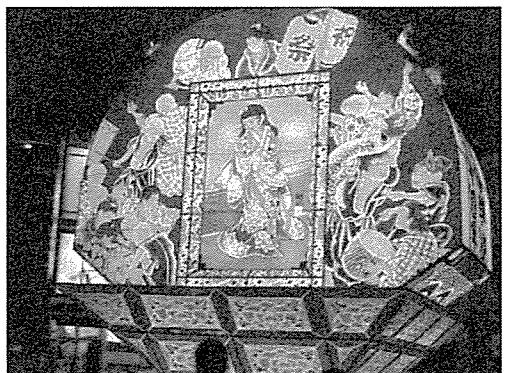


写真8 見送り絵

扇型に混じって立体的な組ねぶたも運行されている。

子どもたちのねぶたは、男の子が金魚、女の子が巾着ということだが、見かけるのはほとんどが金魚ねぶたであった。金魚ねぶたのモデルは「津軽錦」という金魚。江戸時代に津軽藩士が京都から持参し、藩主に献上したもので、津軽藩で飼育されていた。金魚は幸福を呼ぶ魚と言われ、庶民がねぶたにして広めたとされる。

太鼓の音がドーン、ドーンとお腹に響く。見上げるほど巨大な太鼓は「津軽じょっぱり大太鼓」。こちらは太鼓にまたがったまま細長いバチで叩く。笛と鉦の囃子（はやし）の軽快な音色と、ゆったりとした「ヤーヤドー」のかけ声も胸を打つ。

弘前は「出陣」、青森は「凱旋」、五所川原は「戦いの最中」のねぶたと言われる。

「ヤーヤドー」は「(これから戦いに) さあ行くぞ」という意味合いだろうか。

まつりは8月の7日間だけだが、町会単位でねぶたが出されていることもあり、ねぶたの製作が始まると子どもたちも何かと手伝ったりする。また、囃子の練習にも加わっている。まつりによって地域コミュニティが良い形で形成されていると地元の人々が語ってくれた。

町内会や団体が中心のまつりだというのに、そのスケールの大きさと熱気には圧倒されるほ

かない。夜7時に始まった練り歩きが、延々と3時間も続く。小さな子からお年寄りまで、参加しているみんなが楽しんでいるのが分かった。市内亀甲町にある観光施設「津軽藩ねぶた村」(1981年開設、2002年リニューアルグランドオープン)はお勧めスポットだ。見学・体験エリアは有料(500円)だが、弘前ねぶた、津軽三味線、津軽の民工芸品などの見学・体験ができる。

(写真9)

津軽三味線の生演奏を毎日数回やっている。バチを叩きつけるような独特の奏法で、リズミカル。叩き三味線のほかに繊細な弾き三味線もあり、訪れたときは運良く両方聴かせてもらえた。



写真9 津軽藩ねぶた村 (観光施設)

#### 4 青森ねぶた祭

青森ねぶた祭の舞台となる青森市は青森県の県庁所在地で、青森県のほぼ中央に位置する。人口は約30万6,000人(2009年7月時点)。

青森ねぶた祭は、今から270年~290年前の享保年間に始まつたらしい。

明治になって禁止令が出されたり、青森市が戦災を受けた1945年に中止されたり、何度も中断されながら、今日まで綿々と続いてきた。

現在のように大型化されたのは戦後で、企業がねぶた運行の主体となってからは、観光の側面が色濃く出るようになった。今や青森ねぶた祭は、日本屈指の大きな祭典に発展している。訪れる観光客も毎年延べ300万人を超える。

開催は毎年8月2日から7日までであるが、夜間運行は2日から6日まで。7日は昼間の運行となる。

運行コースは青森市内の国道4号、新町通り、県庁通り、平和公園通りで囲まれたエリアである。コースの沿道には有料観覧席が設けられているが、今回(2009年)は景気の低迷と低温とで有料観覧席には空席が目立った。露天のビールもさっぱり売れず、屋台を開いている人も商売あがつたりだ、とため息混じりで話していた。市内のホテルも例年なら満室になり団体客でにぎわうのに、今年は利用客も落ち込み苦戦しているとのことだった。それでも午後になると、運行コース沿道には早々と見物場所を確保する

市民の姿が見受けられた。

弘前ねぶたが町内会や団体が主体で個人客が中心なのに比べ、青森ねぶたは企業主体であるために、不況の影響は相当大きいようだ。

打ち上げ花火を合図に運行が始まると、地をゆるがすのような音やかけ声が固まりになって怒濤のように押し寄せてきた。すごい!



写真10 青森ねぶたの太鼓も大きい

戦に勝って帰ってくる凱旋ねぶたとも言われる青森ねぶた祭のかけ声は「ラッセラー」である。このかけ声が太鼓や鉦の音と一緒にあって、地鳴りのように響く。それに加えて人形山車の周りで「ハネト(跳人)」が大乱舞する。病み付きになりそうな高揚感である。

ハネトとは要は「踊り子」のこと、太鼓や笛、鉦などの音にぎやかな囃子に合わせ、文字通り跳ねまわりながら踊って祭に参加する。

その人数が半端ではないのだ。どこにこんなに若者がいたのだろう、と思うほど、あとからあとから集団でやってくる。ハネトが道路いっぱいに広がって踊る様は圧巻だ。

障害者もハネト衣装をまとい、車いすに乗ってボランティアとともに参加する。ヤマト運輸の「ふくしねぶた」は今年で29回目となる。

ハネト衣装にはルールがあり、ルール通りの衣装を着用すれば観光客でも誰でも祭に参加できる決まりだ。

まず、頭には花笠、肩には鮮やかな赤や黄などの「タスキ」、腰には「シゴキ」と「ガガシコ」(ブリキでできた水やお酒を飲む器)、揃いの浴衣か木綿の着物(浴衣は白を基調とする)、着物の裾は膝までたくし上げ、その下にはピンクや青のオコシ(腰巻き)をつける、足元は「白足袋」に「ゾウリ」、ゾウリは脱げないように「豆しばり」(藍色の水玉模様の手ぬぐい)で縛つておく。タスキ、シゴキ、オコシの色は赤、黄、水色、ピンクのどれかである。何とも明るい色の組み合わせではないか。

市内のデパートではハネト衣装を販売しており、ハネト衣装のレンタルや着付けをしてくれる店もある。

ハネトは激しく跳ねまわり喉が渴くので、沿道には水がたっぷり用意されている。机の上に

紙コップをたくさん並べたこちらの席はあおもり信用金庫（理事長：中田正昭さん、理事：永澤弘夫さん）の観覧席。私はこちらの席に招かれ、近くでゆっくり観覧することができた。



写真11 水をもらいにくるハネットたち

青森ねぶたは勇壮かつ豪華絢爛。とりわけ大型の人形型ねぶたは武者絵が中心で力強いタッチで描かれている。赤が多く使われ、黄色や青もインパクトが強い。

描かれる題材は日本や中国の伝説や歴史上の人物、歌舞伎などで、「古事記」「水滸伝」「三国志」が多い。今年は「愛」の兜が大人気。NHK大河ドラマ『天地人』の戦国武将・直江兼続が、ここにも登場したのであった。



写真12 人形型ねぶたの武者絵



写真13 水滸伝 樊瑞、公孫勝に挑む（ねぶた大賞）



写真14 義と愛「直江兼続」

(写真10、12、13、14 はあおもり信用金庫提供)

青森市は2005年4月1日に旧青森市と旧浪岡町が合併した。まちづくり情報があまり伝わってこないのがちょっと残念であった。

## 5 五所川原立佞武多

そのユニークさ故に注目を浴びるようになつた五所川原立佞武多。五所川原市は作家太宰治が生まれ、幼少期を過ごした街である。津軽半島の中南部にあり、人口は約6万1,600人(2009年7月時点)。

大型立佞武多は高さ20メートル超と7階建てのビルほどの高さになる。重さも、土台と鉄筋の骨組みと紙の本体を合わせると約17トンにも達する。巨大な山車は明治時代から大正時代にかけ、競って作られていた。

電気が普及し電線がはり巡らされてくるに従い山車は小型化し、戦後に起きた2度の大火で、設計図も写真も消失した。

ところが1993年に設計図が発見された。市民有志が復元したのがきっかけで1998年に約80年ぶりに「立佞武多祭」が復活したのだった。

しかし、中心市街の道路上空は電線だらけで、立佞武多の運行に支障を來たし、沿道からの眺めを損なっていた。

そこで、立佞武多活性化の支援として、電線類地中化事業が実施された。

事業内容は以下の通り（事業主体はいずれも青森県）。図5に場所を示す。

① 五所川原停車場線（五所川原市大町）

電線共同溝事業（L=280m）

期間：平成12～平成14年度

② 国道101号（五所川原市本町）

歩道整備事業（L=320m）

期間：平成17～平成18年度

③ 国道339号（五所川原市布屋町）

電線共同溝事業（L=200m）

期間：平成18年度～

五所川原市におけるこれら事業は、道路空間が舞台である立佞武多の運行をより勇壮に演出するものである。電線共同溝と併せ、歩道のバリアフリー化やアーケードの撤去も実施し、道

路の見通しが良くなった上、安全で快適な歩行空間も創出している。

立佞武多の開催は毎年8月4日から8月8日まで。1年に1基ずつ新作がつくられ、ドラゴンボールの孫悟空、人気ゲーム桃太郎電鉄シリーズの桃太郎たち&キングボンビーの立佞武多は話題になった。

観光客数は立佞武多祭が復活して以降、増加の一途をたどっており、2004年には160万人を突破した。(図6)

五所川原立佞武多は戦いの真っ最中。かけ声は「ヤッテマレ！ヤッテマレ！」である。「やつてしまえ」に近い意味という。

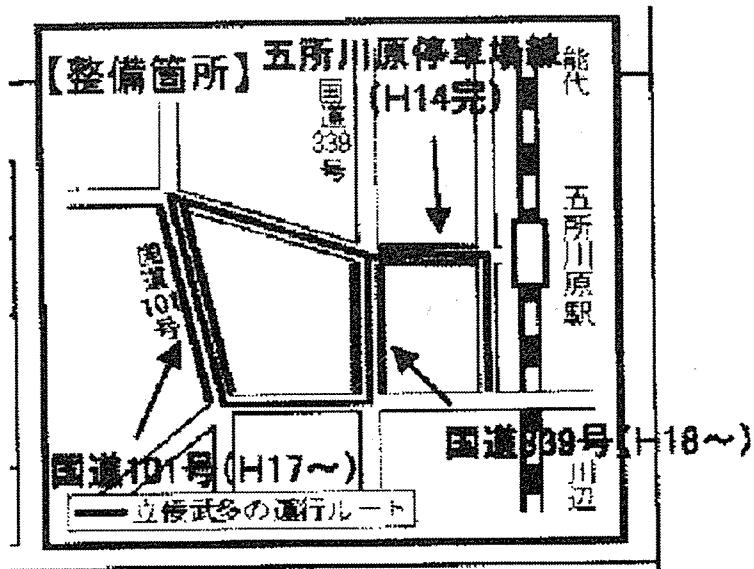


図5 電線類地中化事業整備箇所 出典：観光社会資本の事例集（国土交通省）

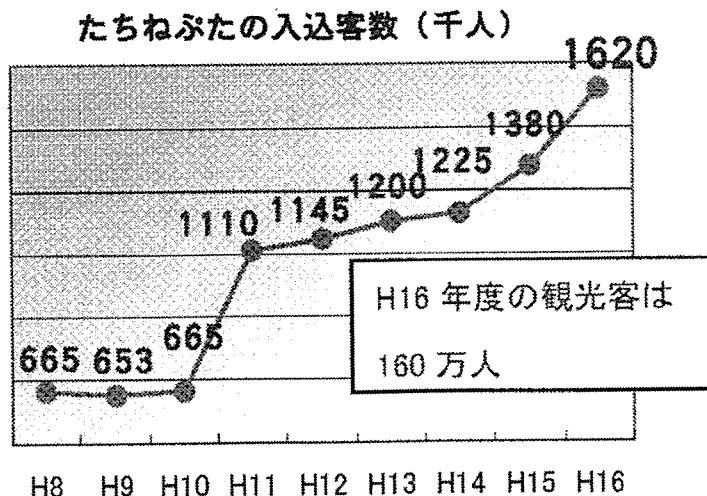


図6 立佞武多の入込客数 (出典：国土交通省 図5と同じ)



写真15 大型立佞武多「不撓不屈」  
(出典：「立佞武多の館」チラシ)

## 6 田舎館村の田んぼアート

弘前市に隣接した田舎館村（いなかだてむら）に足を延ばし、「田んぼアート」を見た。田んぼをキャンバスに見立て、稲で絵を描いている。お城風の役場の天守閣から見下ろす。

1993年に、約2,500平方メートルの田んぼに「岩木山」の図柄と「稲文化のむらいなかだて」の文字を稲で描いたのが始まり。2003年に「モナリザ」に挑戦したときから「田んぼアート」と言われるようになった。

第17回目となる今年の題材は「戦国武将とナポレオン」。つがるロマン、紫稲、黄稲、葉色の白い育成系統の4色に加え、新品種の「祝い茜」を用いて赤色を表現した。



写真16 田んぼアートの戦国武将

戦国武将はもちろん愛の兜の直江兼続。右のナポレオンとも躍動感にあふれ、緻密で素晴らしい出来栄えだった。

今回の取材で弘前商工会議所の永澤弘夫副会頭と関係者に各地を案内していただいた。この場をお借りして心より御礼申し上げたい。

## 自由が丘商店街

中嶋 猛夫

NAKAJIMA TAKEO  
女子美術大学

### 1. はじめに

『東京ウォーカー』による「2009年度住みたい街ランキング」1位は吉祥寺で自由が丘は3年連続で2位を得ている。

[その理由はセレブの街として女性に絶大なる人気を誇る。「休日の散歩や買い物が楽しめそう」(25歳・女性)との意見も多く聞かれる、公園や緑道などの自然があふれる街だ。街中には天ぷら油を燃料として再利用した無料の循環バスが走り、ナチュラル素材を使ったインテリアショップやオーガニックレストランが点在する、エコタウンへと進化しつつある。]と解説されている。



図-1自由が丘、緑道サクラ並木

### 2. 自由が丘の街とは

東京の城南地区の住宅地にあり渋谷から私鉄の東急東横線に乗り15分で自由が丘駅に着き、東急大井町線と立体交差していく1日10万人の利用客がある。



図-2自由が丘商店街

駅は自由が丘の南端部に位置し、東西に流れる九品仏川（現在は暗渠で地上部分はサクラ並木の緑道）沿いの低地にあり、そこに商店街が密集している。

北部高台の自由が丘の住宅街と南部高台の奥沢から田園調布に続く住宅街とに挟まれる地形となっている。

商店街地域としては目黒区の自由が丘1～3丁目と緑が丘2丁目、そして世田谷区の奥沢の北部2、5、7丁目を含む駅周辺で、12の商店街から構成され約1300店舗が加盟している。

また地域の14の商店街路には「しらかば通り」「カトレア通り」「すずかけ通り」など植物や「マリクレール通り」等、各ストリート名称を付け地域住民にも親しまれ初めての来訪者にも判り易くしている。

### 3. 街の活性化理由

その大きな理由には3項目が考えられる。

#### (1) まちの名称イメージ

『自由が丘』このネーミングが多くの人間に明るい良いイメージを感じさせる。

このまちの名称は昭和初期から始まったもので、元々の地名は「東京府下、荏原郡碑衾（ひぶすま）村」であった。

大正13年の関東大震災以降に東京の郊外が住宅地化され人々が移り住む様になり、東横線も昭和2年に渋谷から横浜まで開通して始めて命名され、「碑衾（ひぶすま）村」にも「九品仏」（現在も奥沢7丁目にある古刹寺院名）という駅が出来た。

この当時の栗山村長は耕地整理をして道路を整えて宅地造成を促進し新住民を受け入れ始めると、芸術家や文化人が集まり始め其の中に自由教育を掲げる手塚岸衛氏が「自由ヶ丘学園」を設立し、その友人の洋行帰りの舞踏家の石井漠氏が移り住み「自由ヶ丘石井漠舞踏研究所」を設立し、郵便物に「碑衾村」と書かずに「自由ヶ丘」と書いた事によりこの地名は広まった。

昭和4年には駅名を「自由ヶ丘」と変更し、昭和7年には町名も「自由ヶ丘」と改名された。

新しい時代の感性を町名に素早く取り入れた地域住民や関連諸機関の協力のニュータウン造りが今日の盛況の基盤になっていると言える。

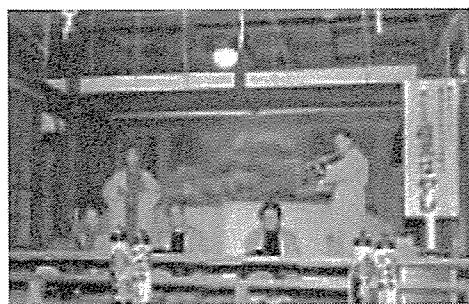
#### (2) 年間の各種イベント

自由が丘では1年中様々なお祭りイベントが開かれ季節ごとに多くの来訪者が通常のショッピング以外のワゴンセールや各種催しを楽しみながら街めぐりをしている。

特に10月の「女神まつり」（昭和36年に駅前広場のロータリー中央に設置された自由が丘のシンボルの女神像）では毎年数十万の参加者が数えられ大盛況である。

## <自由が丘イベントカレンダー（オフィシャルガイドウェブ）>

### 1月 元旦祭



地元の氏神、熊野神社の年初を飾るイベント。区の無形文化財に指定されている目黒囃子をはじめ、見どころ一杯です。

初詣の人並みと参道両側の様々な露天で賑わいます。

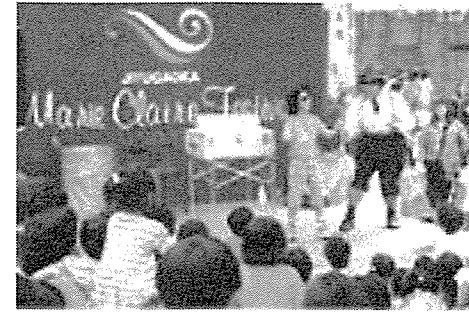
### 4月 スプリングフェスティバル／ さくら祭り



例年4月の第1金曜日に行われている。グリーンストリート（緑道）に先駆け、

満開のサクラの下で開かれる、花と音楽の祭典です。

### 5月 マリークレール祭り



5月の自由が丘駅南口のマリークレール通りを中心に関かれる国際性（フランス的）豊なイベント。

女性シャンソン歌手が名曲を歌い上げ、沿道にはワイン、クレープをはじめ色とりどりのテントショップが並びます。

### 8月 盆踊り



駅前ロータリーに櫓が組まれ、浴衣に身を包んだ人々の踊りの輪が広がる。

ビンゴゲームなどの催し物も盛り沢山。

### 9月 熊野神社例大祭



毎年9月第1日曜日に鎌倉時代より800年以上の歴史ある熊野神社で五穀豊穣を願い開催されるお祭り。

地元商店街の色とりどりの神輿は必見で神社境内は各種露天と参拝者で大盛況です。

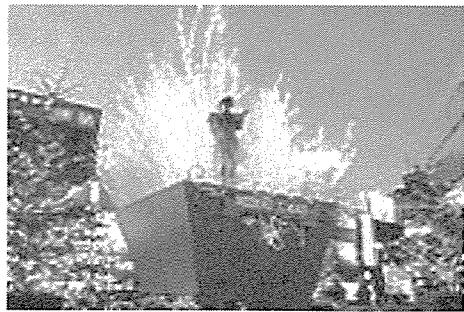
### 10月 女神祭り



自由ヶ丘のイベントの中で最大の催しで駅前のメインステージでの各種コンサートやショーや有名アーチストを迎え開催される。

当日は駅周辺部は歩行者天国と成り各商店街ごとに駐車場などを利用して、フラダンスショーや子供の小遊園地などが出現し、街中に露天やワゴンが並び毎年数十万人の人出がある。

## 12月 クリスマスイベント



駅前ロータリーの女神像の周りに毎年クリスマス飾りが輝き、点灯式には地元の幼稚園児の聖歌やゴスペル聖歌隊なども登場して国際色豊に行われます。

### (3) 先進、継続的な様々な街事業

#### ①森林化計画

自由が丘の街に緑を増やす計画で、エコ活動に参加したりバスモ、スイカのポイントを緑化基金に寄付してもらいその活動費とし、増えた緑や花でミツバチを養いスイーツに利用して利用者に楽しんでいただく方式。

#### ②ごみ収集自由が丘方式

東京では平成8年より事業系ゴミ収集の有料化が始まり、自由が丘では全国に先駆けゴミ収集を民間会社に委託し、都の清掃局では不可能な深夜から早朝にかけ戸別収集を毎日実施している。

#### ③サンクスネーチャーバスの運行

自由が丘の中心部と周辺部を巡回するバスで、使用済み天ぷら油を集めリサイクル燃料として再利用し、乗車料金は無料。



#### ④クレジット/デビットカードシステム

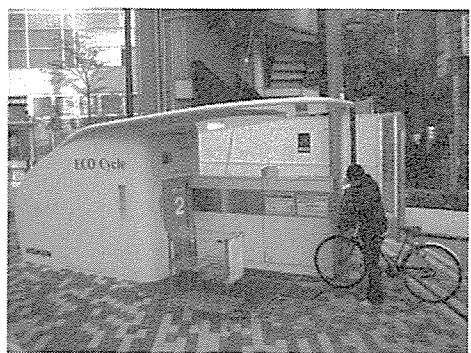
2000年3月より上記カードの一括決済処理システム（東日本では自由が丘が最大の規模）を運営して、利用者の利便性を支援している。

#### ⑤自警団「パックス」

自由が丘は深夜まで営業する店も多いので夜も安全に街中を利用出来る様に、地元の青年部を中心としたメンバーが活動している。

#### ⑥地下式立体駐輪場

駅周辺の自転車の駐輪問題を解消する為、立体駐輪場を地下式を導入している。



#### ⑦「自由が丘 案内人」活動

自由が丘の安全安心プロジェクトのひとつで、大学の女子学生達が人出の多い毎週日曜日に駅周辺で道案内やイベントの整理作業などを行う活動が行われている。

#### ⑧クリーン大作戦「ダスターZ」

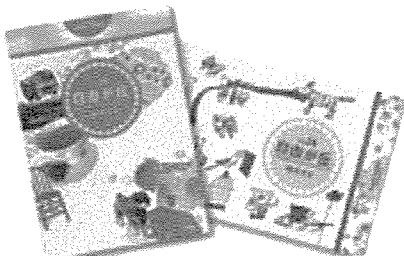
真っ赤なつなぎのユニホームで自由が丘をクリーンな街にするため、力を尽くしています。土日やイベントの日には清掃作業だけでなく携帯灰皿の配布もしています。また、毎週木曜日の美化デーには朝9時から商店街と住民有志により清掃と花壇の手入れが行われている。



#### ⑨オフィシャルガイドブックの発行

このガイドブックは隔年に発行され自由が丘の街と店舗が紹介されていて10万部も売っています。

2008年には発刊50周年となり豪華2冊組となり、本年も通常の一冊版が新しい情報内容で発刊されます。



そして現在のインターネットの時代に対応して、自由が丘オフィシャルガイドウェブ (<http://www.jiyugaoka.or.jp/index.html>) を開設して新鮮な情報を日々伝えている。

## ⑩(株) ジェイ・スピリット設立

これまで自由が丘地区では商店街振興会が様々な成果をあげ、住民団体による街づくり活動も活発に行われて来た。

そこでそれがバラバラでなく地域が一体となった活動が出来るような組織を設立することが望まれ「(株) ジェイ・スピリット」が設立されました。

株式会社ですが、商店街や振興会、商工会議所、NPO、目黒区、町会、住民などが参画、出資して運営され、その目的は「広域商業拠点としての町の商業活性化を図るとともに、良好な住環境の保全に努めながら一体的な地域としてのコミュニティの活性化を図ることにあります。

その活性化のコンセプトを「自由が丘らしさの継承と人にやさしい街づくり」とし、自由が丘の未来の理想に少しでも近づけることをを目指しています。」とされています。

具体的活動の概略は下記の様で多岐に渡つていて自由が丘の活性化を荷っている。

### ○街づくり事業部

都市計画、設計などコンサルタント業務。

### ○情報事業部

インターネット、クレジットカードなど代金決済システムの運営及び管理ほか。

### ○福祉事業部

コミュニティバスや商業基盤施設、保安警備の整備と運営管理など。

### ○事業運営部

市街地の商業振興のための経営指導、情報提供業務や宅配、共同配送の運営。

### ○広報部

各種イベントの企画・立案及、運営他。

### ○ホイップるん事業部

ブランドの企画・開発・制作・販売やコンサルタント業務ほか。



## (4) 駅前広場改修計画

そもそも駅前広場は戦後60余年まえに地元の地主より寄贈され、1949年に都市計画決定されて1961年にはロータリー中央に女神像が設置され自由が丘の顔として現在に至っている。

平成20年2月目黒区は国の「まちづくり交付金」を活用し、駅前広場のバリヤーフリー化等を目的に駅前広場整備を実施することになり「自由ヶ丘駅前広場整備計画案」を公表した。

そして地元の説明会や区のホームページによるパブリックコメントなどで様々な意見や要望を集め、地域住民や商店街の要望で「自由が丘駅前広場整備計画策定懇談会」が5月に設置された。

「懇談会」の構成メンバーは住区住民や町会ほか商店街振興組合、公募区民、(株) ジェイスピリット (まち運営会議) から選ばれた15人程と目黒区関係部署から構成されていて、平成20年度は6回懇談会が開催されて、様々な意見を反映した案が検討された。

懇談会で纏められた整備計画案の基本方針の概略は、現在のバスやタクシーなどの交通関係は大幅に変えず、ロータリーを東西に長い楕円形としバス停やタクシー乗り場を設ける。駅広の南側に歩行者広場を確保しイベント会場とし、広場全体をバリヤーフリーとする事などで、今後は実施に向け景観ほか細部をつめる予定である。

## (5) まとめ

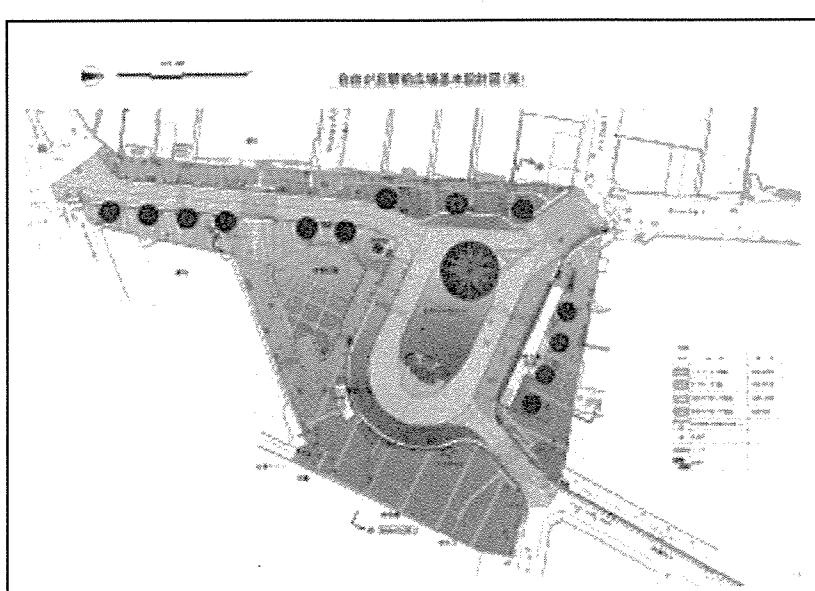
自由が丘地域で生まれ育ちこの街に長年親しんで来たが、この原稿を作成するにあたり振興会事務の方にインタビューしたり、インターネットをはじめ様々な資料を集め改めて認識したのは、自由が丘は地元の人々が常に協力して、先見性、先進性を持って街の活性化に取り組んで来た歴史が現在の繁栄をもたらしていると感じた。

### <参考資料>

\* 自由が丘オフィシャルガイドブック 09

\* &ウェブ

\* 自由が丘駅前広場整備計画<提言書>



## 新入会員の 自己紹介

### ● 安宅 恵（北陸ブロック）

（財）国土開発センター

昨年5月よりJUDIに入会しました、安宅と申します。

私は現在、用地補償及び建築設計の仕事をしています。

主要業務は用地補償ですが、建築設計ではある町の総合公園、児童公園等のトイレの実施設計を担当しています。トイレ自体は小さいですが、こだわるところがなく大変奥が深いものです。

今月（2009年12月23日）開業した富山市の路面電車環状線化に合わせ、町内のまちづくり団体から、都市環境に合うアーケード建設の依頼を受け、そのための法的検討や整理もしております。

他に、ある駅西広場の再整備実施設計の建築部門も担当しております。

建築部門といつても実際は、その中の小さな管理棟の実施設計と駅西全体の建築物の法的検討及び整理です。ただ、管理棟の実施設計においては広場のランドスケープデザインや、シェルターといった大規模建築物のデザインと合うようなものにしなければならず、監修してくださる大学教授の意見を元に業務を遂行しています。

JUDIを知ったのは12年前、私が学生の頃です。当時、大学内でJUDI北陸ブロックの会員研究発表会をしていました。

その頃、グリーンツーリズム、ブルーツーリズムといった言葉を初めて聴き、まちづくりや観光に興味を示し始めた頃でもありました。

今までではフォーラムなどに足を運んでいましたが、これらは私自身活用できているのか疑問に思い、社会貢献をしているとはいって、何か行動を起こさなければならないと思い入会しました。

最近感じていることは、まちのデザインとりまとめの必要性です。

先日、新聞に「景観デザインで駅を美しく使いましょう」と書かれた記事を読みました。

駅の待合などが汚く利用されるため、駅に電飾を施しきれいに使ってもらいたい旨が記載され、建物の屋根に雪つりのような格好の電飾が青く光っている写真が掲載されていました。

「景観デザイン」という言葉は多く聞かれるようになりましたが、いったい何を基準として使用しているのか。その電飾を私は美しいと思いませんでした。電飾の仕方にもこだわりをもてばいいのにと思いながら、アドバイスをしてくれる人はいなかったのかとも思いました。

別のところでは、環状線化される路面電車の車体が「白、シルバー、黒」の3色になったことを受けて、その町内のまちづくり団体から「黒は棺おけのようで嫌だ」という声を聞きました。

中心市街地を走るLRTは、都市的でスタイルッシュな感じで、その3色にしたのだと思うのですが、富山市とそのまちづくり団体との価値観が異なっており、その歪みを残したままLRTを開業した事に不安を感じました。

そこで、第三者によるデザインの取りまとめが必要ではないかと感じたのです。

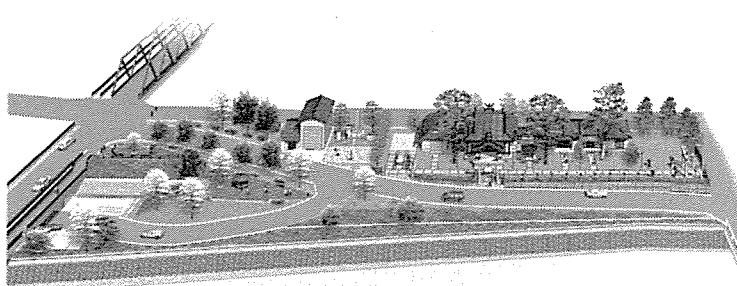
市町村には景観委員会といった組織がありますが、都市環境デザインの専門家として気軽に相談やアドバイスができるような組織が必要ではないかと思います。

建築士会のまちづくり分科会でも景観や都市環境の活動をしています。そのような他団体と共に活動し、ネットワークを構築することで、もっとJUDIが社会に周知され、都市環境デザインの質の向上につながるのではないかと考えます。

JUDIがもっと社会に周知されることで、都市環境デザインを考える人が増えていけば嬉しいです。

これから多くを吸収して、まちを楽しんで、質の高いデザインのものを手がけていきたい、今後の業務に活用していきたいと思います。

どうぞよろしくお願ひいたします。



←（左）業務で手がけた神社の移転  
に伴う改築設計のパース

### ● 伊良部 一史(琉球ブロック)

(株)国健

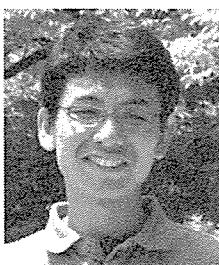


ある晩、久しぶりにマンションのベランダから南東の空にオリオン座を見た。私は首里城公園の仕事を主にしている。首里城公園は構想から四半世紀が経過した。復元の仕事を20年続けて感じたことは首里城内の都市化である。約4haの城郭の中に都市の機能がほとんど備わっている。その中に御内原(ウチバル)という江戸城でいう大奥がある。今そこで繰り広げられたであろう人間ドラマに思いを馳せている。その一角に王妃が月見や日光浴をした象徴的なデザインの空中庭園がある。空中庭園と言っても石積みを積み上げ、2階部分をベランダ状にした約6坪の庭である。王妃は何を思って南東の空に出たオリオン座を見たのであろうか。歴史を透かして見えるもの、そのことに関心を抱いている。

今、都市環境デザインのベースに求められているものは土地の記憶ではないか。歴史的なレイヤーが現代の都市空間に与えるもの、JUDIがそのことをより深く考える場になればと思います。JUDIのみなさま、今後ともよろしくお願ひします。

### ● 武田 重昭

兵庫県立人と自然の博物館



兵庫県立人と自然の博物館 研究員。

1975年神戸市生まれ。UR都市機構にて団地や都市の再生における屋外空間の計画・設計・マネジメント等に携わる。都市環境企画室、都市住宅技術研究所等を経て2009年より現職。

都市の公共空間が様々な立場や価値観を持つ人々の心のより所となるためには、いったい何が必要でしょう?表層的なデザインの美醜ばかりでなく、政治や経済、組織やコ

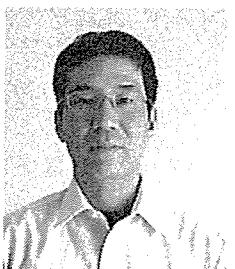
ミュニケーションのあり方を含めた「都市デザイン」を考えて行くことが求められているのではないかでしょうか。

私的な生活がどれほど豊かになり、私の空間の選択性がどれほど高まったとしても、その価値を共有することができなければ、都市の魅力はますます細分化され、消費されていくばかりです。

身近な公共空間が、それぞれの人生の一場面を魅力的に演出し、その地域に対する誇りや愛着を深める場所となるように、その仕組みやデザインについての新しいパブリックスタイルを考えてみたいと思います。

### ● 村田 一也(北陸ブロック)

石川工業高等専門学校



はじめまして。石川工業高等専門学校建築学科に在職しています村田と言います。専門は建築分野で、西洋近代建築史、歴史・意匠の分野です。学校では近代建築史、西洋建築史、建築地域空間形成論、建築設計などを担当しています。

大学在籍中からまちづくりにかかわり、それ以降、職についてからも地域にて行く機会があり、最近は主に施設計画を通じた地域環境の改善に取り組んでいます。これまで、環境にかかる部分で、間伐材の有効利用促進や海岸環境の利用改善、まちづくりに近い部分で震災復興からの地域活性化や伝統的建物・景観を活かした地域づくりなどをやっています。

いろいろな取組みや事例等について勉強できればとおもっていますし、積極的に参加させていただければとおもっています。よろしくお願ひいたします。

### ● 藤原 京子(関西ブロック)

(株)ヘップス

はじめまして、藤原と申します。

子供の頃から建物や都市に興味があり、大学では環境デザイン、大学院では歴史的まちなみについて学んできました。大学での研究やアルバイト等を通じ、まちづくりや都市開発のコンセプト企画補助、博物館等の展示企画等の補助

を経験し、都市や景観、歴史文化に対する感心がより一層高まりました。

現在は、コンサルタントとして働いており、主に公園と歴史的建造物を関連させた公園の活性化、文化財建造物の運営補助を中心には携わっています。

また一方で、都市の中で自分を取り戻す「安らぎの場づくり」を目指すNPOの活動も行っています。

JUDIの活動は学生の頃から興味を持っており、また勉学の参考にさせていただいてまいりました。JUDIを通じて多くの方々と出会い、様々なものの考え方、価値観と出会いたいと考えています。

どうぞよろしくお願ひいたします。



活動風景（藤原 京子）

### ● 鳥越 友香里（北陸ブロック）

金沢工業大学



今年度からJUDI会員に入会しました。金沢工業大学・環境建築学部 谷研究室研究生の鳥越友香里と申します。JUDIさんとの関わりは2年前からで、谷教授の参加された会合や見学会などにも参加させて頂きました。北陸のパブリックアートの見学会に参加させていただいた時には、何気ないアートを置くにしても周辺との景観や配置、デザインなど様々な問題があることを知りました。

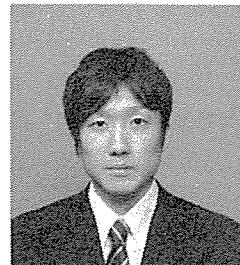
また、北陸ブロックのホームページ作成を行わせていただきまして、現在では更新作業

も行っています。ホームページに関しては、なかなか見る機会が無いという方にもわかりやすい構成を心がけています。現在では、北陸4県の都市デザインを紹介するページを会員の皆様から原稿をお願いして作成しています。

今後とも宜しくお願ひします。

### ● 中澤 傑（北陸ブロック）

金沢工業大学



金沢工業大学工学研究科建築学専攻博士前期課程に在籍している中澤傑です。中学生時代から漠然とはしていましたが、まちをつくる活動に携わりたいと思っていました。大学では昨年までの2年間、石川県白山市白峰のまちづくりに関する活動に携わっていました。現在は、金沢市で行われた公共事業の合意形成を図るためにワークショップ等へ参加し、それをもとに研究を行っています。来年度からは、石川県の建設コンサルタントでお仕事させていただけることになっています。

将来的には、地域社会に貢献できるような技術者を目指しているので、ここで先輩方から社会人としての心得や技術者としてのモラル等、一つでも多くのことを吸収したいです。そしてこれからはJUDIの一員としてより良い都市環境づくりに寄与していきたいと考えています。

若輩者ではありますが、よろしくお願ひ致します。

### 広報委員会より

今期の新企画として、新入会員に自己紹介していただくコーナーを設けました。

広報委員会では、できるだけ多くの会員がJUDIのイベントに参加したり、機関誌に登場する機会を増やしたいと思っています。

ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。

## ■選挙管理委員会 役員選挙結果報告

伊藤 登  
ITOH NORORU  
選挙管理委員会委員長

2010年4月1日に告示しました標記選挙の候補者届出の受理は、2010年4月16日午後6時に締め切りました。代表幹事については立候補者5名、推薦候補者5名、監査役については立候補者2名でした。

上記届出の全ては役員選出規定、同細則に照らして有効であることを確認しました。その結果、役員選出規定第9条第2項に基づき、全員が当選人として選出されました。

なお、当選人は2010年7月に予定されている第20期定期総会における承認によって、正式に選任されることとなります。

### ■代表幹事当選人氏名（届け出順）

氏名／所属及び所信	
長町 志穂 ／(株)LEM空間工房	関西ブロックのメンバーとして、また都市環境デザイン会議の全国レベルでの、さらなる発展・活性化のために自分なりに貢献できればと考えます。 地域を越えた連携に向けて、新しいネットワークや手法の確立に向け努力していきたいと思います。
中野 恒明 ／芝浦工業大学、(株)アブル 総合計画事務所	JUDI活動をここ5年は休止状態しつつ、外部の目から見てきました。その間、地方の会員との交流は続けてきました。設立後20周年になり、ブロック活動は頑張っていますが、会員全体の高齢化とともに若い人たちの入会が低調の感があります。本部機能に関しても、全国会員へのリーダーシップや社会に対する情報発信力が以前と比べ低下しているようにも感じます。代表幹事経験者ですが、任期2年で辞め事業委員会に専念した経緯があり、何か心残りがありました。ここに活動再開を宣言し、代表幹事に復帰し、皆さんの活動を支えて行きたいと思います。
白濱 力 ／(株)グラフィス環境計画、 武蔵野美術大学	広報委員会委員長、代表幹事を務めさせていただき、その経験を活かし、これからJUDIの発展と日本の都市形成に、またJUDI20周年記念事業の成功へ導いていきたいと考えています。微力非才の身ではありますが、誠心誠意運営に貢献していく所存です。
中村 伸之 ／(有)ランドデザ イン	代表幹事を1期務めさせていただきました。引き続き20周年事業の成功に努力したいと思います。 また、今後の本会の活動の継続のために運営方式の改良に努力したいと思います。昨年より試行しているテレビ会議の本格的導入により、会議開催に関わる経費（交通費）を削除し、全国ブロック間のコミュニケーションを拡大し、より一体感のある運営を目指したいと思います。
長沼 真智子 ／(有)エル・グレコ	今まで代表幹事として2年務めさせていただきました。今後2年は、新しい都市環境デザインのあり方を模索し、実現化をめざして微力ながら尽くしたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。
高谷 時彦 ／(株)設計・計画 高谷時彦事務所	都市環境デザインのこれからの方針、可能性を「しあわせな風景×デザイン JAPAN」をテーマにした記念事業を通して考えていく所存です。
松本 篤 ／愛知産業大学	中部ブロックと研修委員会の活動を中心に代表幹事として活動していましたが、今期は20周年事業に向けての取り組みを加えて、さらに活動を充実させたいと思います。
齊藤 浩治 ／パシフィックコンサルタ ンツ(株)	私は、これまで10数年に亘り東北ブロックに在籍し、その間2度の東北ブロック幹事を務めた実績があります。会員数が減少する中で、何とか東北ブロックの活動を継続しながら、前期は仙台での総会を取りまとめる役割も果たしました。このような経験を生かして、全国的な視野で活動を展開したく、代表幹事に立候補します。
栗原 裕 ／(有)ユー・プラネット	関東ブロック幹事を4年勤め本年任期が切れます。4年間の間に、関東ブロック会計、押しかけリレーセミナー、ひとことサロン、キャラバン等の行事の企画運営を行ってきました。本年からは、JUDI全体の企画運営に積極的に携わらせていただきたいと考えます。なお、関東ブロックに関しては運営委員として今後も協力していく所存です。
酒本 宏 ／(株)KITABA	少子高齢化、低炭素社会の実現など変化が求められる時代なかで、日本学術会議協力学会研究団体の指定も受けた都市環境デザイン会議の幹事として、活動の活性化に努め、よりよい都市環境の実現に寄与したいと考えています。

### ■監査役当選人氏名（届け出順）

氏名／所属及び所信	
小浪 博英 ／帝京平成大学	JUDIの更なる発展と美しい国土の形成に微力をつくします。
江川 直樹 ／関西大学	代表幹事、ブロック幹事等、JUDI創設時からの思いと経験を生かし、会の運営に微力ながら貢献できるように努めたいと思います。

## 事務局より

### ■日本学術会議協力学術研究団体の指定を受けました

JUDIは今年3月25日に日本学術会議の協力学術研究団体として指定されました。

日本学術会議は内閣総理大臣の所轄下で独立して職務を行う「特別の機関」であり、この協力団体としての認定により、JUDIは各省の監督下にある諸学会と同等の位置づけを得たことになります。ブロック活動などにおいて『日本学術会議協力学術研究団体』であることを名乗って頂いて構いません。

詳しくはこのURLへ。

<http://www.scj.go.jp/ja/group/dantai/index.html>

### 1. 新会員の紹介

2010年1月～4月の入会者は下記の通りです。(入会順、敬称略)

4月30日現在の会員数は、401名です。

会員氏名	勤務先(ブロック)
須藤 和哉	パナソニック電工(株)(関西)

また、準会員の横山公一氏が4月16日付けて正会員に移行されました。

### 2. 退会者(2010年1～4月)

石崎均、伊藤清忠、後藤春彦、塩川和久、鈴木裕、玉木伸秀、土田義郎、北条蓮英、松井基芳(敬称略)

代表幹事や事業委員長を歴任された南條道昌会員が1月に逝去されました。御冥福をお祈りいたします。

### 3. 住所変更等(敬称略)

氏名	変更内容(新)
岸田 文夫	(株)竹中工務店企画室企画部 〒541-0053 大阪市中央区本町4-1-13 Tel. 06-6263-5842 FAX. 6271-0398
齊藤 浩治	パシフィックコンサルタンツ(株) 総合研究所VEセンター 〒206-8550 東京都多摩市関戸1-7-5 Tel. 042-372-6205 FAX. 372-6313
高原 浩之	(株)HTAデザイン事務所 〒594-0021 大阪府和泉市山荘町 278-2 Tel. 0725-38-8825
藤崎 浩治	風景保全研究会 〒560-0001 大阪府豊中市北緑丘 2-1-24-1401

### 広報委員会

白濱 力	土田 旭
松村みち子	加茂みどり
菅 孝能	岸田 文夫
中嶋 猛夫	松山 茂
櫻井 淳	横山あおい
吉田 慎悟	島 博司
服部 圭郎	横山 裕
作山 康	